

令和 7 年度
支部活動等助成事業報告書



大阪生活サポート協会

はじめに

平素は、会員並びに支部（施設等）の皆さま方のご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成 20 (2008) 年 4 月に発足した当協会の最初に取り組んだ事業が「支部活動等助成事業」であります。

この事業に真っ先に取り組んだ意図は、①自由な発想で利用者ファーストの事業である。②身近な地域で、かつ会員の所属する施設（事業所）が主体的に事業を実施する——の 2 点です。

当時の当協会は互助会から大阪知的障害児者生活サポート協会（旧名称）へ移行してまもなく事務局体制も未整備な状況下、取り組んだ記憶があります。

この事業実施の主たる目的は変わっておりません。①会員の皆さま一人一人が暮らしたいと希望する地域で、安心・安全に「自分らしく」あること。②事業所等におかれては、自由な発想でニーズに対応した事業の実施をすること。加えて「人材育成事業に取り組んでほしい。」と強く願っています。

当協会の財源は、会員（生活サポート総合補償制度加入者）からの会費です。年間会費は 2,500 円、会員数 1 万人余です。当協会の令和 7 年度の会費収入は約 2,635 万円です。事業費約 1,100 万円の 5 割である約 550 万円が助成事業の決算額であります。助成事業を重点事業の一つとして位置付けている旨、ご理解のほどお願いします。

令和 7 年度の助成事業実施事業所等の事業内容は、下記のとおりです。

助成事業を申請した団体は社会福祉法人が約 9 割、NPO 法人 1 割弱、株式会社は 2 事業所のみです。

旅行 (一泊・日帰り)	防災関係	地域交流	研修	食事会	その他	計
13	7	16	1	7	1	45

〈地域密着型事業の推進を！〉

施設入所から地域生活への移行が進められ、今や共同生活援助（以下、グループホーム）入居者数が施設入所支援利用者数を上回っています。それぞれの地域には多数のグループホームが存在し、その運営母体は社会福祉法人をはじめ NPO 法人、株式会社など多数参入しております。

入居者の重度化・高齢化傾向、日中活動の休みの土・日には余暇を支援するプログラムが地域の中にあるだろうか。地域に溶け込んで暮らしているのだろうか。地域にはいろんな文化・芸術等教室（サークル）が活動しているが、グループホーム入居者が参加しているだろうか。などなど…。

当協会助成事業を活用して、地域で障がい者の暮らしを支える事業や人材育成など、自由な発想で挑戦してみましょう！

入居者の実態に即した環境要因へのアプローチの必要性、加えて入居者の日常生活支援に携わる支援者の育成など、課題が多々あります。

〈成年後見制度を見直す改正民法が成立！〉

グループホーム入居者に限らず、障がい者一人一人が地域で「自分らしく生きる」を支援する大事な制度です。内容をしっかり知ることです。研修会の開催など企画していただきたい。

当協会としては、見直しされる成年後見制度について当協会顧問弁護士の井上計雄先生に相談のうえ、勉強の機会を設定したいと考えています。

地域の障がい者の暮らしを支える事業や人材育成事業など、それぞれの地域性を活かした実践の積み重ねが地域の支援力向上につながります。障がい者の一番身近な存在である我々ができることから実践することです。

※令和 7 年度定時社員総会で名称変更が承認され、「一般社団法人大阪生活サポート協会」になりました。

令和 8 年 7 月吉日

一般社団法人 大阪生活サポート協会 理事長 安本 伊佐子

目次

はじめに

I 支部活動報告

1 (社福) いわき学園	いわき生野学園…………… 1
2 (社福) 門真共生福祉会	エリアサポートジェイエス…………… 2
3 (NPO) 至誠	あべの作業所…………… 3
4 (社福) ぷくぷく福祉会	ぷくぷく福祉会…………… 4
5 (社福) ばなな	サニー・サイト…………… 5
6 (NPO) ノーマライゼーション高槻	コルメナ…………… 6
7 (社福) サライ福祉会	サライ…………… 7
8 (社福) 大阪聴覚障害者福祉会	あいらぶ工房…………… 8
9 (社福) 療育・自立センター	すばる・北斗福祉作業所…………… 9
10 (社福) 路交館	ういず滝井……………10
11 (NPO) チャレンジド・ネットいずみ	ととろプラス……………11
12 (社福) ゆうとおん	ゆうとおん ほーぷ……………12
13 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センターさくら……………13
14 (社福) 大阪福祉事業財団	あさひ希望の里……………15
15 (社福) そうそうの杜	そうそうの杜……………16
16 (社福) こそせ福祉会	拓共同作業所……………17
17 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センターねぎぼうず……………18
18 (社福) 北摂杉の子会	ジョブサイトひむろ……………19
19 (株) アベリア企画	ハミガキ広場……………20
20 (社福) 豊中のぞみ会	多機能型事業所みらい……………21
21 (社福) 路交館	桜の園……………22
22 (社福) 和光福祉会	ワークいっば・つばさ……………23
23 (社福) いずみ七彩	いずみひのき製作所……………24
24 (社福) 嘉誠会	ヴァンサンクつつじ……………25
25 (社福) みきた福祉会	みきた作業所……………27

2 6 (社福) いずみ野福祉会	岸和田障害者共同作業所……………28
2 7 (社福) くるみ福祉会	夢工房くるみ……………29
2 8 (社福) 大阪市手をつなぐ育成会	東成育成園……………30
2 9 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センター中……………32
3 0 (社福) 和泉つくし福祉会	さらの郷……………33
3 1 (社福) いずみ野福祉会	山直ホーム……………35
3 2 (NPO) パワーウエスト	ほんまちライフ ひこぼし……………36
3 3 (NPO) ナポレオンフィッシュ	ナポレオンフィッシュ……………37
3 4 (社福) 摂津宥和会	摂津市立みきの路……………38
3 5 (社福) 摂津宥和会	摂津市立ひびきはばたき園……………39
3 6 (社福) ひびき福祉会	アクティビティーセンターひびき……………40
3 7 (社福) 路交館	ういず守口……………41
3 8 (株) 相生株式会社	わくわくワーク……………42
3 9 (社福) 武田塾	高井田苑……………43
4 0 (社福) 大阪府障害者福祉事業団	のどか……………45
4 1 (社福) 大阪市手をつなぐ育成会	港第二育成園……………46
4 2 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	支援センターしらさぎ……………47
4 3 (社福) バオバブ福祉会	えるで……………49
4 4 (社福) 大阪手をつなぐ育成会	グーテン……………50
4 5 (社福) ふれあい共生会	地域活動支援センターもくれん……………52

II 資料

令和7年度支部活動等助成事業実施要項

令和7年度支部活動等助成事業実施支部一覧

大阪生活サポート協会事業の理念と概要

●表紙作品 「魚の一日」(りょう)

令和7年度 支部活動等助成事業報告

I 支部活動報告

1 支部名：いわき生野学園

- ① 実施日：令和7年7月5日
- ② 実施場所：いわき生野学園 北側グラウンド
- ③ 対象者：利用者、家族、地域住民、舞台出演者、職員 計 約500名
- ④ 実施概要

「夏祭り2025の開催」

夏祭りを通して、利用者に飲食模擬店、ゲームコーナー、イベントなどを楽しんでいただきながら自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう支援すること。

(具体的内容)

- ・飲食模擬店の出店（唐揚げ・ポテトフライ・コロッケ・揚げギョウザ・たこせん・ドリンク等）
- ・各種ゲームコーナー
- ・花火
- ・舞台イベント（本園ダンスクラブ及び地域のサークルによる舞台発表、近隣高等学校吹奏楽部による演奏 計5団体）

⑤ 成果

本園は障がい児・者の通所施設で、地域社会の中で自立した日常生活、または社会生活を営むことができるよう多様な支援を提供するとともに、利用者に寄り添った支援を行えるよう日々サービスの向上に努めております。その一環として毎年夏祭りを開催してきました。夏祭りでは各種模擬店、ゲームコーナーを出展し、ご来場された多くの方楽しんでいただきました。また、舞台イベントでは例年より多くの地域のサークルにお越しいただき、日頃の練習成果を披露する場として舞台発表していただくことで、地域住民の来場も増え、より盛大に行うことができました。地域住民に、障がいがある方への理解を深めていただけるよう努め、本園が目的とします地域交流を図り、地域における公益的な取り組みとして実施することができました。

⑥ 今後の展望

今後も夏祭りを通して、利用者が地域住民との交流を深め、自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう支援してまいります。また、夏祭りに参加される方々や職員の熱中症を予防し、安全性を確保して毎年恒例の行事として継続できるよう努めてまいります。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	駐輪用カラーコーン	13,080	
自己資金	90,376	舞台昇降階段	33,440	
		舞台組立・解体費	110,000	
		舞台単管（看板掲示用）	8,140	
		花火・ライター	33,563	
		提灯用ロープ	11,572	
		舞台用ネット・結束バンド	8,357	
		蚊取り線香・虫よけスプレー	2,745	
		飲料代	19,479	
計	240,376	計	240,376	

2 支 部 名：エリアサポートジェイエス

- ① 実 施 日：令和7年10月8日
- ② 実 施 場 所：あべのハルカス SKYガーデン・大阪関西万博
- ③ 対 象 者：利用者 23名 職員 9名 計 32名
- ④ 実施概要

「秋の外出 IN 関西万博2025」

「大阪で万博！」という一生に一度あるかないかのイベントに参加して、数年後「あ
のとき大阪で開催されていた万博に行った」という思い出と、万博というものを経験し
ていただくことを目的に実施。

万博は12:00からの予約であったため、それまでの時間はあべのハルカスにてお土産
を購入。（万博グッズを購入できるストアがあるため。※万博内はキャッシュレスと土
産売り場の混雑が予想されたため、先に購入。）その後、SKYガーデンにて昼食を食べ
万博会場に移動。到着後はグループに分かれて会場散策。

⑤ 成 果

万博も終わりに近い日にちであったため、予想以上の混雑であった。それでも数か所
のパビリオンを観ることができ、大屋根リングも歩くことができた。暑い中、かなり歩
いて各利用者疲れもあったが、皆さん「行って良かった！」「楽しかった」「パビリ
オン色々観れたよ」という声ばかりであった。中には1970年の大阪万博も経験している利
用者もあり、「2回も行けた」と喜ばれていた。利用者各々の中で貴重な経験となった
と感じる万博外出であった。

⑥ 今後の展望

今回の外出は、都会、人込みと集団で行動していくのが大変な中での外出であったが
事故等なく無事に終了できた。色々な場所や環境を経験していくことで利用者の自信に
も繋がり、「行ってみたい！」の選択肢が広がっていけばいいと思われる。そういった
経験ができる外出を今後も実施していきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	貸切バス代金	176,000	
自己資金	283,570	有料道路・駐車場	19,070	
		乗務員費用	1,100	
		昼食代金	80,000	
		万博観光費用	157,400	
計	433,570	計	433,570	

3 支 部 名：あべの作業所

- ① 実 施 日：令和7年9月25日
- ② 実 施 場 所：大阪関西万博
- ③ 対 象 者：利用者 28名 職員 12名 計 40名
- ④ 実施概要

「利用者日帰り旅行の実施」

大阪・関西万博へ行き世界の文化や英知が結集した最先端の技術等を見学し体験し、また仲間との交流を育む。

⑤ 成 果

万博の閉幕が近づいていたため、当日も20万人超えの入場者であった。が、心配したトラブル等もなく、全員怪我等なく無事帰宅できた。1日中、分単位のタイムスケジュールを組んでの集団行動だったにも関わらず、正に一致団結し助け合いながら、終始楽しみ笑顔で楽しむことができた。会場内の移動距離もかなりあったが、休憩しながらスケジュール変更することなく終えられた。

事前下見の際に購入しておいた「ミャクミャク」のぬいぐるみのキーホルダーを、帰路のバス車内で配布したときの利用者が全員笑顔で、帰宅後もキーホルダーを観ながら余韻を楽しまれた様子であった。

⑥ 今後の展望

本来、今年度は慰安旅行の年でしたが、万博開催を見越して、日帰り旅行の年とした。しかしながら計画が思いのほか進まず、閉幕ぎりぎりとなってしまう、来場者がピークの時期と被ってしまったことは反省に値する。ただ、普段人込みを避けての外出が多いため、今回のようなイレギュラーな外出にもかかわらず、スタッフ・利用者共に協力し

てやり遂げることができた。ただただ『万博に行こう！』を合言葉に体調を整えたり、当日の晴れを願ったり、持参する荷物の整理をしたりと、各自それぞれができることをこなし、申込者全員が参加できたことは、今後の励みにもなる。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	バス・通行・駐車代金等	230,640
自己資金	612,210	保険料金	4,000
		昼食代金	132,000
		万博観光費用	198,000
		手配料・企画料	44,000
		下見・土産代	137,570
計	762,210	計	762,210

4 支 部 名：ぶくぶく福祉会

- ① 実 施 日：令和7年10月6～17日
- ② 実 施 場 所：ぶくぶくさぽーと3階
- ③ 対 象 者：利用者 42名 家族 11名 職員 15名 外部 8名 計 76名
- ④ 実施概要

「ぶくぶくあ〜と展の開催」

当法人では、利用者が絵画・手芸・工芸などの創作活動に取り組んでいますが、その作品が外部に発信される機会は限られています。作品発表の場を設けることで、利用者の自己肯定感を高めるとともに、地域住民との交流を促進し、相互理解を深めることを目的としておりました。しかし初日の10月4日には天候が悪く地域の商店街と共催のお祭りが中止となりましたが、10月6日以降は開催することができ、アート展も展示期間を1週間延長しました。

⑤ 成 果

今年度初めて開催。今までは他事業所の創作物を利用者は目にする機会がありませんでしたが、今回は他事業所の作品もたくさんの利用者に見ていただくことができ、展示作品に感心していました。次はこんな作品を作りたいという声も聞くことができ、創作に意欲的になっています。家族にも来所いただき作品を楽しそうにご覧になっていました。「アート展が続くと良いですね」とのお言葉もいただきました。初日の10月4

日の地域商店街のお祭りが中止になり、多くの方に作品を見ていただき、地域の方々との交流ができなかったことが残念でなりません。

⑥ 今後の展望

本アート展は、障がいのある方々が日々の活動の中で育んできた創造性や個性を社会に発信する貴重な機会となっています。今後は、この取り組みを一過性のイベントに留めず、継続的な表現の場として発展させていくことを目指しています。

まず、地域社会とのつながりの強化を図ります。地元企業や学校、福祉関係機関との連携を深め、展示スペースの充実や共同制作の機会を設けることで、多様な人々が作品を通して交流できる環境を整えていきます。次に、アーティストとしての支援体制の充実を進めます。表現の幅を広げるとともに利用者の自立支援につなげていきます。今回天候不良のため開催できなかった商店街とのお祭りは3月に開催予定となっています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	パーティーション	103,455	
自己資金	3,249	キャスター脚セット	42,515	
		ピンチガーランド	440	
		ゼムクリップ	110	
		デコタック	6,521	
		カラー紙	217	
計	153,249	計	153,249	

5 支 部 名：サニー・サイト

① 実 施 日：令和7年10月7日

② 実 施 場 所：サニー・サイト

③ 対 象 者：利用者 26名

④ 実施概要

「災害時用テントの購入」

震災等の災害時には、一時的に当事業所が避難所としての機能を担う場面も考えられる。その際には一部の建物の設備等が使用不可能の場合も考え、シェルターテントを2つとタープテント1つを購入し、利用者が安全・衛生的に避難・トイレや着替えができるようにすることが目的。

⑤ 成 果

ワンタッチタイプのテントであるため、設営が楽に行えた。また、重量も1つ13kgと持ち運びもしやすかった。

⑥ 今後の展望

災害時に必要なものは何かと職員間で検討した結果、今回はテントの購入となった。今後は、これらを使用して避難訓練を行い、災害への備えができるようにしていく。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	シェルターテント	83,600
自己資金	22,100	タープテント	8,500
計	92,100	計	92,100

6 支 部 名：コルメナ

① 実 施 日：令和7年5月29日～6月1日

② 実 施 場 所：福寿舎（高槻市城北町1丁目9-6）

③ 対 象 者：利用者、家族 50名 その他一般 250名 計 300名

④ 実施概要

「コルメナ15周年記念アート展の開催」

開所から15年を迎えた当事業所では、日々利用者の皆さんが絵画や刺しゅうに取り組んでいます。15年の間に作風が変わった方、変わらず作り続けている方がいます。今回は、今現在の彼らの作り出す作品を見ていただきたいとの思いで、近年の作品に絞った展示を企画しました。

⑤ 成 果

コルメナのことをご存じなかった方が多く来てくださり、作品の良さをお伝えすることができました。たくさんの作品を販売することもでき、利用者の収入に反映させることもできました。

⑥ 今後の展望

作品のすばらしさを多くの方に知っていただき、利用者のモチベーションと収入につながるよう、コルメナを知ってくださる人の和を助け、作品制作と発表に力を入れています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	消耗品	37,033
クラウドファンディング	392,500	旅費交通費	5,000
自己資金	455,144	通信費	69,804
		会場使用料	79,200
		支払報酬	593,071
		支払手数料	2,310
		広告費用	207,670
		その他	3,556
計	997,644	計	997,644

7 支 部 名 : サライ

- ① 実 施 日 : 令和7年9月29日～10月1日
- ② 実 施 場 所 : 昼神温泉 湯多利の里 伊那華 (長野県)
- ③ 対 象 者 : 利用者 16名 (内車椅子 7名) 職員 14名 計 30名
- ④ 実施概要

「利用者・秋の宿泊レクリエーションの実施」

利用者が季節を感じられるレクリエーションの一つとして実施。秋の味覚であるシャインマスカット狩りとリンゴ狩りを実施しました。各果樹園で試食もさせていただき本場信州の秋の果物を堪能しました。リンゴ園では木々に囲まれた中にテーブルを用意し、涼しい信州の自然の中で昼食を頂きました。旅館では皆さん温泉にも浸かり、部屋でゆっくりと過ごしました。

⑤ 成 果

秋の味覚を本場信州の自然の中でいただき、普段できない体験ができました。また大きな良い思い出ができました。重度障がいの方々も安全に、旅行中に体調を崩すことなく過ごす事ができ、他の地域の方との交流の場を持つことができました。

⑥ 今後の展望

利用者の安全を維持しながら、まだ行ったことのない所へ行ったり、したことのないことなど経験できる機会を今後も作っていきたいです。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	宿泊費	660,000
自己資金	665,000	消費税・入湯税	75,000
計	735,000	計	735,000

8 支 部 名：あいらぶ工房

① 実 施 日：令和7年9月12日、26日

② 実 施 場 所：神戸市中央区～須磨区方面

③ 対 象 者：利用者、職員、ボランティア 計 57名

④ 実施概要

「日帰り旅行IN神戸」

感染防止のため、2つの日程に分けて実施。三ノ宮で昼食後、神戸須磨シーワールドへ。普段は4つの班に分かれて過ごしているため、班を越えた交流をし、社会性を養う機会を設ける。

⑤ 成 果

各回ともに、班を越えた2グループで行動した。重複障がいのある利用者同士との、またボランティアとの交流を図ることができた。また、観光や外食から集団行動やマナー、社会性を育むことができた。

⑥ 今後の展望

旅行で育まれた協調性や思いやり、社会性をこの日帰り旅行だけで終わらせず、日常生活でも発揮できる環境づくりや支援に取り組みたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	神戸シーワールド	130,000	
自己資金	879,347	昼食代	204,600	
		企画・取扱料	70,400	
		大型バス	392,000	
		高速・駐車料金	57,000	
		添乗員経費	70,000	
		傷害保険	19,200	
		関係者土産代	5,287	
		振込手数料	990	
		値引き	-130	
計	949,347	計	949,347	

9 支 部 名：すばる・北斗福祉作業所

- ① 実 施 日：令和7年7月19日
- ② 実 施 場 所：すばる・北斗福祉作業所
- ③ 対 象 者：利用者 54名 家族 41名 職員 46名 関係者 58名 計 199名
- ④ 実施概要

「すばる・北斗まっりの開催」

コロナの影響もあり、規模を縮小して行ってきた「すばる・北斗まつり」ですが、普段交流することの少ない利用者、家族、職員などが交流を深める機会にしようと今年度は今までにない取り組みとしてキッチンカーを招きました。それ以外では模擬店、舞台（カラオケ）、盆踊り、花火などを企画し、実施しました。

キッチンカー（からあげ）以外に模擬店（焼きそば、フランクフルト、ポテト、かき氷、揚げパン、たこせん、飲み物）を所庭と食堂に分かれて行い、遊びコーナーとしてお化け屋敷、スマートボール、水鉄砲射的を所庭と別の部屋と廊下で行い、廊下で舞台（カラオケ）、お菓子コーナー、自主製品の販売も行いました。後半には盆踊りと花火を所庭で行い、まつりを締めくくりました。

⑤ 成 果

夏本番、暑い中での開催となり、屋内中心で熱中症に気を付けながらではありましたが、関係者の来客もあり大勢で盛り上がりのあるまつりとなりました。

交流という意味では、近隣の事業所の方の見学や、OB・OGの方など普段関わりが少ない方との交流があり、親交を持てたと思います。

キッチンカーでの販売やお化け屋敷、水鉄砲射的やお菓子コーナーなど利用者と企画していく中で今までには取り組みづらかったことも、やってみようという思いで、形にすることができたと思います。お菓子コーナーでは自分の好きなお菓子を選ぶという風にして行い、遊びコーナーでは玩具などの景品を用意して行いました。

⑥ 今後の展望

今回、助成事業を申請し実施した「すばる・北斗まつり」ですが、今後につなげていけ

そんな取り組みができたと思います。今年度できたことを糧に、違う形での取り組みに繋げていけるのではないかと思いますし、そのことが地域啓発や地域交流に繋げていけるのではないかと思います。今後も色々な発想で、参加する方々が楽しめるようなまつりを企画、実施していきたいと考えます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	キッチンカー	71,000	
自己資金	92,596	遊びコーナ備品・景品	27,483	
		駄菓子コーナー備品・景品	32,082	
		花火	53,320	
		宣伝費（案内状等印刷）	5,600	
		備品（提灯、タープ等）	24,858	
		記念品	6,560	
		その他	21,693	
計	242,596	計	242,596	

10 支 部 名：ういづ滝井

- ① 実 施 日：令和7年9月19～20日
- ② 実 施 場 所：兵庫県（フルーツフラワーパーク・アトア）
- ③ 対 象 者：利用者 19名 職員 9名 計 28名
- ④ 実施概要

「利用者旅行の実施」

・メンバー旅行の流れ

7月初旬：生活介護と就労継続B型と一緒にいくか検討し、一緒にいくことに決定する。

7月下旬：行き先のプレゼンテーション実施。8月：宴会に向けて取り組み。しおり作成。日程確認。

目的：仕事をいつも頑張っているから「おつかれさま」の意味を込めてみんなで旅行に行く。旅行から帰ってきて、また笑顔で仕事を頑張るために全力で楽しむ。メンバー皆で意見を出し合って旅行という行事を作っていく。

具体的内容：メンバー旅行まではどこに行きたい？雨ならどうする？何を食べたい？チームで動く？等、色々なことを利用者会議で決めました。旅行に行きたいをどのように

実感していくか、利用者同士の関係、チーム作りを行った。旅行までの過程を大事にしてみんなと一緒にできることを発見し、日々の仕事や生活の慰安、メリハリ、次のやる気アップに繋がった。旅行の取り組みをすることで、自分たちで計画し進めていく事を感じ、自信に繋げることができた。

⑤ 成 果

毎年の経験の積み重ねで、利用者が主体的に自分たちの旅行を計画していく。行き先から決めていきます。今年度は「フルーツフラワーパーク」に決まりました。行き先が決まってからは仕事の合間に各チームの宴会練習に熱が入ります。来年はどんな目的を持った旅行になるのでしょうか。今から楽しみです。

⑥ 今後の展望

仕事や行事に追われながらも、利用者が決めていける支援（当事者主体）を目指します。地方での交流もしていきたいと考えます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	宿泊費	356,400	
自己資金	572,640	昼食代	42,500	
		バス代	149,600	
		高速代	7,520	
		旅行傷害保険	5,400	
		企画・手配料金	11,440	
		入館等障がい者割引	63,720	
		駐車場代	6,060	
計	642,640	計	642,640	

1 1 支 部 名：ととろプラス

- ① 実 施 日：令和7年10月31日
- ② 実 施 場 所：堺原池BBQ 「matoï」
- ③ 対 象 者：利用者 11名 職員 3名 計 14名
- ④ 実施概要

「親睦会の実施」

親睦会として、利用者に「やったことがなく、やりたいこと」を聞いたところ、バー

ベキューをしたことがない利用者が多かったため実施。経験と楽しむことはもちろん、他者と協力して目的に向けた買い物や調理等を行う過程で自立する力をつける。

⑤ 成 果

実際には、買い物時にお金の計算ができず、どんな金額の支払いも「1,000円」で支払っていた方が、買い物に向けてお金の計算の練習などができ、物価を知る中で予算の範囲で何を買うのかという経験ができた。普段の調理実習では、「料理を作る」ことが目的で、食材の切り方を一つ一つ解説したり実際に切る時間が無かったが、今回は食材仕込みの時間には、野菜に応じた切り方なども、ひとりひとり学ぶことができた。

バーベキューでは、役割分担をし、他者と協力する中で、お礼や日々の活動では関わりの少ない方との交流となり、対人関係での貴重な経験をすることができた。

⑥ 今後の展望

利用者が主体的にイベントを企画していくことは引き続き行いたい、今回のように「自立する力」を座学だけでなく、実際の社会に出て体験できる機会を増やしていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	食材費	58,907	
自己資金	10,807	入園料	21,000	
		駐車料金	900	
計	80,807	計	80,807	

12 支 部 名：ゆうとおん ほーぷ

① 実 施 日：令和7年10月11日

② 実 施 場 所：社会福祉法人 ゆうとおん

③ 対 象 者：利用者 40名 家族 30名 職員 40名 地域住民 80名 計 190名

④ 実施概要

「ゆうとおんまつりの開催」

当日は、当事者、家族、職員と共に地域の方々も来場され、にぎやかで温かい雰囲気の中で開催されました。今回のまつりは、地域の方々や他事業所との交流を目的として企画し、開催にあたっては当事者の中から実行委員を募り、「ゆうとおんまつり会議」

を何度も行いながら、やりたいことや出店内容などを一緒に考え、準備を進めてきました。当日は例年通り、焼きそば・イカ焼き・たこ焼き・ポテト&から揚げ・ピンポン玉入れ・一円玉落としなどの模擬店が並び、今年は新たにビンゴ大会を開催して大いに盛り上がりました。今後も地域とのつながりを深めながら、より多くの方にゆうとおんや他事業所の活動を知っていただけるよう、継続して取り組んでいきたいと思っています。

⑤ 成 果

授産製品やアートクラブ作品、当事者活動「みんなできめる会」によるジュース販売も行い、地域の方や日頃ゆうとおんに来る機会の少ない家族の皆さまに、日常の活動を知っていただく良い機会となりました。さらに、ゆうとおんバンドによる演奏や劇団ひなたぼっこによる新喜劇が披露され、会場は笑顔と拍手に包まれました。他事業所のラルケットさん、パンジーさん、もくれんさんにも出店いただき、交流の輪が一層広がる場となりました。今年も多くの方々の協力により無事開催することができました。

⑥ 今後の展望

今後も地域とのつながりを深めながら、より多くの方にゆうとおんや他事業所の活動を知っていただけるよう、継続して取り組んでいきたいと思っています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	50,000	まつりチラシ制作	4,720	
自己資金	45,084	ボランティア保険	8,230	
		ボランティア交通費	16,000	
		ちらし郵送料	720	
		各屋台材料費	48,522	
		かざり、腕章	6,624	
		各種ゲーム景品代	10,268	
計	95,084	計	95,084	

13 支 部 名：支援センターさくら

① 実 施 日：令和7年11月3日

② 実 施 場 所：支援センターさくら

③ 対 象 者：利用者 36名 職員 42名 地域住民等 193名 計 271名

④ 実施概要

「さくらフェスタ2025の開催」

平成18年度より、地域との交流を深め、障がい理解の啓発を図る事を目的としてさくらフェスタを実施しています。ステージでは地域の学校等の発表、広場では福祉サービス事業の物品販売等、芸術や経済活動を通じて、よりニュートラルな感覚としての障がい理解を促進する機会の提供を目指しています。

今年度は支援センターさくら開所55周年を記念したフェスタとして以下の内容で開催しました。

特設ステージ：式典・パフォーマンス

敷地内：模擬店・ゲーム・事業所紹介動画展示など。

ステージ：開閉会式、地元中学校吹奏楽部演奏、口笛カフェパフォーマンス、ハワイアンバンド演奏。模擬店：キッチンワゴン（唐揚げ）、ジュース販売、パン販売。

ゲーム：スマートボール、スーパーボールすくい、輪投げ、グランドゴルフ、ボッチャ。

バザー：福祉事業所自主製品販売、バルーンアート。

⑤ 成 果

今年度は昨年に比べ、地元のボランティア団体や中学校などの出演、出店数を増やしたこともあり、地域住民の来場が多く見られました。ステージ司会やバザー販売店員として利用者の方々が担当を担うことで地域住民と交流を持ち、当法人の事業への理解を促進する機会になったと考えます。

⑥ 今後の展望

地域事業所等の参加をさらに募り、地域と協同で実施するイベントとして展開をしていきたいと考えています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	模擬店経費	130,658
自己資金	583,055	舞台経費	608,696
模擬店売上	97,300	運営費	41,204
		謝礼金	46,855
		広報費	2,942
計	830,355	計	830,355

14 支部名：あさひ希望の里

- ① 実施日：令和7年7月5日(利用者避難訓練)、10月12日(地域防災訓練参加)、
11月20日(ポータブル電源使用訓練)
- ② 実施場所：グループホームきらら・ふわふわ
- ③ 対象者：7月5日職員 4名 利用者 6名 10月12日職員 2名 11月20日職員 7名
- ④ 実施概要

「グループホームにおける非常用電源の購入と避難訓練の実施」

目的：大災害に備えてのポータブル電源の購入、および避難訓練の実施。

内容：従来から南海トラフ地震など大規模災害を想定したときの避難訓練を実施し、避難経路の確認などを進めている。その中で、一時的に命を守れても「グループホームは生活の拠点であり、ライフラインが寸断された場合に命が守れない」との職員の総括から、非常用電源の確保が必須となった。今回はその購入と、有効な使い方を学習することを目的とした。

⑤ 成果

予め利用者とともに避難訓練を実施することで、緊急時に実際に行える避難方法を把握。また地域の防災訓練に参加したことで、近隣の方の力を借りてできる避難、あるいはその後の避難生活を確認した。その中で、避難できない、或いは避難せずにグループホームに留まることが必要なケースもあることが分かり、改めてポータブル電源の必要性が分かった。

⑥ 今後の展望

災害時に誰もが使用することができるポータブル電源の使用マニュアルを作成する。合わせて定期的に活用する練習を積み重ねていくことで、実際に被災した際にも冷静に取り扱えるようにしていく。避難訓練を実施した日に、ポータブル電源の使用訓練も同時に実施する。



⑦ 収支報告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項目	金額	項目	金額
助成金	150,000	ポータブル電源	188,160
自己資金	38,160	(3台@62,720円)	
計	188,160	計	188,160

15 支部名：そうそうの杜

- ① 実施日：令和7年11月27～29日
- ② 実施場所：北海道
- ③ 対象者：利用者 18名 職員 4名 計 22名
- ④ 実施概要

「利用者旅行の実施」

（目的）

北海道の大自然や食べ物をテレビの中での世界だけではなく、実際に体験し、触れることで視野を広げるとともに、その経験を今後の生活の幅を広げるようにすることを目的として実施した。

（実施内容）

1日目

希望を募り2グループで行動した。

1グループ：エスコンフィールド北海道でスタジアムツアーに参加。

2グループ：白い恋人パークでクッキー作り体験。

夕食は合流し、サッポロビール園でジンギスカンを食べ、ホテルにチェックイン。

2日目

観光バスを利用し、旭山動物園へ。天気はあいにくの雨だったが、動物園内で傘のレンタルができた為、雨天でも問題なく楽しめた。雨天の方が活動的になる動物もいたのも、ある意味では貴重な体験ができた。動物園からの帰りに札幌市内の見学へ。

夕食は海鮮居酒屋にて食事、たくさんの北海道の海の幸を味わうことができた。

3日目

ノーザンホースパーク(馬牧場)へ見学。

乗馬に馬車と、普段できない体験をたくさんすることができた。昼食は新千歳空港で各々、好みの海鮮丼を選んで食べ、その後はおみやげを購入し帰阪した。

⑤ 成果

企画の目的として挙げていた今後の生活の幅を広げるような貴重な体験ができた。

今回の社会見学を皮切りにたくさんの発見や挑戦する大切さを感じることができた。

⑥ 今後の展望

今回の社会見学を通じて目で見ただけでなく、北海道の大自然を肌で感じることもできた。今後は日本のみならず海外など、さらに視野を広げられるような活動をしていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	航空機代（往復）	968,000	
自己資金	1,760,260	宿泊費	539,000	
		夕食代	154,000	
		観光バスレンタル料	198,000	
		バス乗務員費用等	25,014	
		JTB企画費	21,186	
		航空費キャンセル	4,400	
		振込手数料	660	
計	1,910,260	計	1,910,260	

16 支 部 名：拓共同作業所

① 実 施 日：令和7年11月8日

② 実 施 場 所：第2拓作業所

③ 対 象 者：利用者 61名 家族 65名 職員 67名 舞台出演者 7名
後援会会員、職員家族、地域住民 20名 計 220名

④ 実施概要

「こごせ福祉まつりの開催」

目的：法人が一つになって交流を深める。利用者の活動を知ってもらう。

テーマ：「ふくしまつり 楽しい方がいいんじゃない?!」

（実施内容）

舞台発表（利用者の発表、ダブルダッチ、マリンバ演奏、バンド演奏）

出店：カレー、豚汁、フライドポテト、フランクフルト、回転焼き、あてもの、バザー、
スイーツ販売、野菜販売。

作品展示：作品の展示、活動報告

大抽選会：1位 肉、2位 米、3位 ラーメンセット、4位 お菓子セット

⑤ 成 果

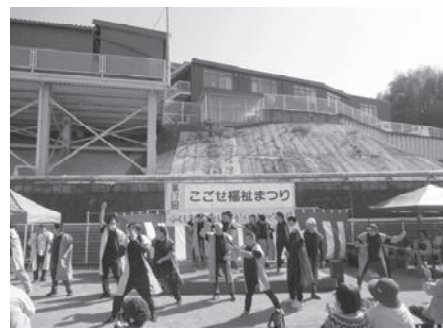
当日は利用者、家族、職員、後援会会員、職員家族、地域の方々と一日、舞台や出店や抽選会などで楽しむことができた。

保護者や地域の方々に舞台や展示などを通して日々の活動を知っていただくことができた。また、保護者や職員、利用者と交流を図ることができた。

助成補助を受けることで、外部から出演者を招くことができ、ダブルダッチやマリンバなど本格的な演技、演奏に触れることができ、一緒に参加することで自信にもつながり楽しむことができた。

⑥ 今後の展望

利用者や保護者の方からは今後もこの活動を続けてほしいという声がアンケートに上がっていたので継続していきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	設営費・出演者謝礼	176,624
自己資金	213,783	模擬店（食材費等）	116,671
		その他	70,488
計	363,783	計	363,783

17 支 部 名：支援センターねぎぼうず

① 実 施 日：令和7年11月14日

② 実 施 場 所：京都（京都タワー・都ホテル・京都水族館または京都鉄道博物館）

③ 対 象 者：利用者 10名 家族 6名 職員 6名 計 22名

④ 実施概要

「日帰り旅行の実施」

利用者の年齢が50歳代、家族も7～80歳代と高齢化が進み普段外出する事が困難になっていたり、利用者の支援度・介助度が年々上がって行く中、今回の日帰り旅行を通じて、家族との思い出作りや絆を深めるとともに、職員と利用者や家族との交流を深めるために実施した。

⑤ 成 果

当日は天候も良く、最初の目的地の京都タワーでは京都の街並みがよく見えました。「あそこ行った事あるよ」、「昔、家族で行ったね」等思い出話に花が咲いていました。

昼食のビュッフェも外食の回数を従来から重ねた事でマナーも良くなり、100種類あるという都ホテルのランチビュッフェを堪能しました。午後は京都水族館と京都鉄道博物館に分かれて見学。今回、行き先を決める際に本人の会で投票をしたところ同票となり、「それじゃあ、どちらでも行けるようにしましょう」と選択制になりました。水族館チームは色んな魚やペンギン等を見て「かわいいなあ」「面白い動きやなあ」等感想を話していました。鉄道博物館チームは昔懐かしい新幹線やSLを見たり、運転シミュレーションをして楽しみました。「乗った事ある!」と言った声や、アニメのキャラクターをモチーフにした機関車が見られて大満足でした。

ご家族の皆さんも「一緒に出かけられるのも、この旅行だけ」という方も多く、食事等の介助も「職員がいるから安心できる」といった声があり、今回の旅行も好評をいただきました。

⑥ 今後の展望

今後も、日程や行き先の選定については、利用者の意思決定支援を大切にし、希望等をしっかりと伺いながら本人の会で決めていきたいと思います。また利用者、家族の高齢化は年々進んでおり、今後も家族の絆の再確認、その絆が深められるような活動を続けていきたいと考えています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	日帰りバス旅行代金	323,010	
自己資金	173,010			
計	323,010	計	323,010	

18 支 部 名：ジョブサイトひむろ

① 実 施 日：令和7年11月4～6日

② 実 施 場 所：北摂杉の子会 杉の子農園

③ 対 象 者：萩の杜、ジョブサイトひむろ、ぶれいすBe利用者、職員 計 約120名

④ 実施概要

「杉の子農園収穫祭の開催」

収穫の感謝の意味を込めて、事前に利用者に収穫してもらった野菜（サツマイモ）で焼きいもを作り、飲み物と一緒に農園内で飲食してもらった。

（実施内容）

10:00 現場準備

10:30 利用者、職員で農園に行く。

農園に着いたら、焼きいも、飲み物をもらい食べる。時間がある方は収穫体験も行う。

14:30 終了

⑤ 成 果

天候にも恵まれた陽気の青空の下で、焼きいもをいただき、普段顔を合わせることが少ない利用者や職員の交流の機会になった。

⑥ 今後の展望

当初は、地域住民を交えたイベント形式での開催を予定していたが、会場の都合で昨年同様の開催形式となった。次年度以降は、子ども食堂の同時開催と併せ、検討していきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉 (円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	103,276	焼き芋器レンタル	68,200
自己資金	10,000	さつまいも不足分	6,450
		飲料	17,626
		雑費	2,916
		溝蓋	18,084
計	113,276	計	113,276

19 支 部 名：ハミガキ広場

- ① 実 施 日：令和7年12月10日
- ② 実 施 場 所：ハミガキ広場 多目的室
- ③ 対 象 者：利用者 13名 職員 4名 計 17名
- ④ 実施概要

「避難所改革と防災対策研修会の実施」

目的：ハミガキ広場関係者における災害対策の周知。

実施内容：例年9月度実施の避難訓練及び防災訓練に対する追記活動案内としてポータブル電源購入に伴う使用説明会実施の旨を事前に案内（対象者：ハミガキ広場利用者）を行った。当日は工賃面談日であった為、参加者数は1名の欠席者（体調不良）のみであった。

ハミガキ広場多目的室にて防災対策と被災における問題点を参加者にてディスカッションを行った。

防災対策としては意見としてライフラインの確保より、飲料水の確保、食材の確保のほか暑さ寒さ対策や、情報の収集に関し必要である電気の確保のための、ポータブル電源の必要性が出され、使用方法の説明を行った。

また、ポータブル電源を各自のスマートフォンやいろいろな家電機器に繋いで、実際に稼働させた。

⑤ 成 果

東北地震発生もあり、万が一に備え対策を考えることの大事さが理解されたと感じた。

⑥ 今後の展望

災害により被災となる確率はすべての方が同じであり、その時に助け合える環境が構築されている事が重要であると考えます。事業所を通してご縁があった利用者・スタッフ家族等、安心できる基点としてハミガキ広場を考えていただけるよう努めることができると考えております。

今後活動の一環としてホータブル電源等の貸し出し運営も実施いたします。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	ポータブル電源	87,300
自己資金	17,300		
計	87,300	計	87,300

20 支 部 名：多機能型事業所みらい

① 実 施 日：令和7年9月26日

② 実 施 場 所：姫路セントラルパーク

③ 対 象 者：利用者 36名 職員 19名 計 55名

④ 実施概要

「日帰り旅行の実施」

コロナ禍以降、遠出の外出を実施していなかったため、観光バスに乗り旅行気分を楽しさを味わう事、生活介護と就労継続支援B型の利用者が一緒に外出する事も無かったため、今年は事業間の交流も一つの目的として実施した。

(実施内容)

事業所より観光バス2台で出発。姫路セントラルパーク到着、レストランにて食事。遊園地（お土産購入）、その後ドライブスルーサファリ・ウォーキングサファリ・スカイサファリを楽しみ、記念撮影、事業所へ帰所。

⑤ 成 果

何より利用者の笑顔が成果です。久しぶりの旅行にバスに乗るだけでも嬉しそうでした。助成金を受けて、リフトバスを用意できたことは車椅子の利用者には乗り降りがとても楽でした。久しぶりに大きな観光バスでのお出かけで旅行気分を満喫されました。

⑥ 今後の展望

車椅子での移動の方が6人おられ、散策の際にスピード感が違うので、動きに差がで

き、同じ場所にいく事よりも、それぞれの体調や動けるスピードなどによってコース分けをした。今後は、小グループの班での活動の方が良いかも知れないと思った。利用者の皆さんはとても楽しめたので、また今後も継続して実施できればと考えています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	観光バス代金	149,500	
自己資金	587,020	観光バス（リフト車）	205,700	
		駐車代	4,000	
		高速代	29,320	
		入場料	121,000	
		昼食代	137,500	
		乗務員昼食代	7,500	
		添乗費	44,000	
		旅行業務取扱料金	22,000	
		旅行傷害保険	16,500	
計	737,020	計	737,020	

2 1 支 部 名：桜の園

① 実 施 日：令和7年10月14～15日、10月27～28日

② 実 施 場 所：大阪・神戸須磨方面

③ 対 象 者：利用者 36名 職員 20名 計 56名

④ 実施概要

「慰安旅行の実施」

桜の園では重度の障がいのある方や身体の障がいの方、年齢を重ねていくことで介助を必要とするようになった方などが、仲間として仕事であったり日々の生活を共に過ごしておられます。今年も宿泊旅行に行きたいと言う希望が利用者の方から多く出ていたため日々の仕事を頑張っている慰安として、また利用者のモチベーションにつなげることを目的に慰安旅行に行きたいと考えました。

⑤ 成 果

旅行に行くまでの取り組みとしてチームでどこに行きたいか、何をしたいのか、何を食いたいのかなどを話し合ったり、考えていく中でチームの中での結束や桜の園の仲間としての意識がより一層高まりました。

⑥ 今後の展望

今後この旅行でのチーム活動の経験を活かし、地域との交流や行事等で意見を出したり活躍してもらい、利用者主体の活動を進めていきたいと思ひます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	旅行代金	1,615,460	
自己資金	1,568,679	レンタカー代	69,374	
		雑費	33,845	
計	1,718,679	計	1,718,679	

2 2 支 部 名：ワークいっぽ・つばさ

① 実 施 日：令和7年12月9日

② 実 施 場 所：事業所つばさ

③ 対 象 者：利用者 45名 職員 20名 計 65名

④ 実施概要

「ワークいっぽ・つばさ初めての交流会の開催」

令和7年4月より多機能事業所として事業開始したが、事業形態の違いと事業所の所在地の違いがあり、利用者間の交流ができていなかった。

交流会を実施しお互いの交流を深め、生活介護事業には就労継続支援B型へのステップアップを目指すきっかけの一つとして、就労継続支援B型は生活介護事業利用者との交流を持つことで人との関係を幅広くできる場として、機会を提供させていただく。

(実施内容)

10:30 出張寿司つばさに到着

11:00 いっぽの利用者、スタッフつばさに到着。

職人が寿司を握る様子を見学。その後、食べられないものなどを伝え、食べる。

12:50 和菓子体験開始職人より和菓子の説明を聞き、体験。

練り切り、イチゴ大福、どらやき作りを実演してもらい、食べる。

13:30 閉会

⑤ 成 果

開始直後はなかなか利用者同士話しかけづらい様子でしたが、一緒に見学や体験をすることで「がんばって」、「これもおいしいよ」など会話のきっかけになっていたよう

です。会の終わりごろには、なごやかに話をされていました。また、実演していただき、興味深そうにされたり、「すてきだね」など職人の手先の動きに感動される方などもおられました。「昔、おやつ作りしてたんだよ」など懐かしそうに話をされる方もおられました。

⑥ 今後の展望

今回の交流会を経て、仲間意識ができていのように感じました。お互いに話しかけあっておられ、席などもあえて決めていなかったのですが、どちらかに偏るということもなく、自然に一つのテーブルにいっぽとつばさの利用者の方が両方おられるという状態になっていました。

今後は情報交換などができる場を提供したり、一緒にイベントを楽しんでいければと考えています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	寿司ケータリング代	110,000
自己資金	3,128	和菓子ケータリング代	40,000
		紙皿・コップ	1,955
		赤だし・茶代	1,173
計	153,128	計	153,128

2 3 支 部 名：いずみひのき製作所

- ① 実 施 日：令和7年12月22日
- ② 実 施 場 所：いずみひのき製作所
- ③ 対 象 者：利用者 12名 職員 6名 計 18名
- ④ 実施概要

「非常用発電機の購入と避難訓練の実施」

非常時におけるポータブル電源の利用も踏まえた避難訓練の実施。

⑤ 成 果

非常時におけるポータブル電源の利用も踏まえた避難訓練を実施。普段行っている避難訓練に加え、購入したポータブル電源の使い方を職員だけでなく利用者も含めて学習していただいた。訓練で利用することによって、意識づけができたように感じる。また、いざという時は利用者が主体になっても電源を使うことができるよう、使い方の順番を

皆で確認し手順を書いた紙を並べて話しあいながら再度確認をしていただいた。緊急時は慌ててしまうことが多いが皆が使い方を理解していることで、お互い助け合うことや役割分担をスムーズに行うことができるので皆の安心につながるできると感じた。

避難訓練後、ポータブル電源で沸かしたお湯でぜんざいを作り試食。寒い中、緊張して訓練に取り組まれていたが、無事に終わり皆さんホッとされているようだった。今回ポータブル電源を購入させていただいたことで、食べ物や連絡などにおける非常時の不安解消につなげることができ、とても心強く感じられた。

⑥ 今後の展望

非常時でも落ち着いて行動できるよう、年2回の避難訓練には毎回ポータブル電源の使用方法を確認するようにする。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	ポータブル電源	77,300	
自己資金	7,300	(ソーラーパネル付属)		
計	77,300	計	77,300	

2 4 支 部 名：ヴァンサンクつつじ

① 実 施 日：令和7年11月28日

② 実 施 場 所：ワークセンター ヴァンサンクつつじ

③ 対 象 者：利用者 45名 家族 27名 招待客 6名 計 78名

④ 実施概要

「ヴァンサンクつつじ祭りの開催」

利用者、ご家族、職員、関係者が一堂に集まり交流を図り、人と人が触れ合うことで、地域に根づいた、開かれた施設を目指します。

新型コロナウイルス以降、外部との交流やイベントが縮小され、利用者の充実した活動、経験が以前よりも少なくなりました。それが当たり前の毎日にならないよう、様々な体験をしていただき、それに伴い職員のチャレンジ精神や、利用者を中心とした前向きな意見交換、発想力や想像力、対応力、リスクマネジメントなどの学びの機会とすることを目的としました。

⑤ 成 果

利用者、ご家族に実施予定のお知らせをしてから、楽しみにされている声を多く受けました。当日まで飾り付けや、出店のポップなど職員と共に楽しみながら制作されていたのが印象的です。当日は、天気や、気温にも恵まれ、家族と一緒に外で食事をされる方もたくさんいらっしゃいました。ご家族、利用者同士が交流し、談笑されながら施設内で自由に過ごされている雰囲気は、新型コロナウイルス流行後、初めて見る光景でした。

普段の日中活動とは違う特別感をかみしめる様に、参加していただき皆さん楽しんでいました。また、家族同士も久しぶりに顔を合わせられる方も多く、「このようなイベントを企画し、家族同士を会わせてくれたことに感謝します」とのありがたい言葉を頂戴しました。職員に関しましても、企画段階から、準備、当日まで、日常業務の合間に会議を重ね、どうすれば参加者に楽しんでいただけるだろうかと試行錯誤し、運営にあたったことで、発言力や、発想力、チーム力、リスクマネジメント力が向上しました。

招待客の方たちにも楽しんでいただき、よさこいチーム「よさこいおおきに」様のお力添えで、みなさん踊り、歌い、笑い、豊かなお祭りとなりました。

⑥ 今後の展望

開催日に、ご家族、利用者にお祭りのアンケートを実施しました。その集計を基に、次回の開催はご家族、利用者の意見を反映し、より良いお祭りが実施できるようにしたいです。また、会議を重ねる中で、初回の開催は大規模にせず、先ずは、利用者、ご家族に楽しんでいただく形を取らせていただきました。開催を重ねる度に、近隣住民の方や、地域の方、関係者の方など少しずつ規模を大きくしていき、更に地域に根付いた施設を目指していきたいと思っております。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	50,000	食材費	40,509	
自己資金	5,849	容器等	6,568	
		謝礼金	4,000	
		飾りつけ等の備品	800	
		税合計	3,972	
計	55,849	計	55,849	

25 支 部 名：みきた作業所

- ① 実 施 日：令和7年12月19日
- ② 実 施 場 所：・平宗（柿の葉寿司体験）・奈良日航ホテル（昼食）
・金魚ミュージアム（見学）
- ③ 対 象 者：利用者 15名 家族 9名 職員 9名 計 33名
- ④ 実施概要

「日帰り旅行の実施」

利用者・家族と親睦を深め、社会見学・手作り体験・外食など、日常生活と違う環境の中で心身のリフレッシュを図り、参加者間の親睦を図ることを目的とした。

平宗にて、柿の葉寿司を作る。奈良日航ホテルにてバイキング形式による昼食。金魚ミュージアムにて施設見学、芸術としての作品を見た。

⑤ 成 果

コロナ禍も過ぎ、以前のように利用者・家族・職員と共にバス利用により奈良方面への日帰り旅行を実施した。1年ぶりの日帰り旅行で、家族も楽しみにされていた。体験・食する・見学と1日有意義な時間を過ごす事ができ、利用者にとってもよい社会勉強になったものと思われる。

⑥ 今後の展望

今後も、体験・見学を中心に行き先を検討していきたい。

当事業所のホームページにて助成を受け日帰り旅行を実施したことを報告しております。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	大型貸切バス代	137,500	
自己資金	339,900	高速・駐車代	10,000	
		乗務員代	2,200	
		昼食代	105,000	
		柿の葉寿司体験	77,000	
		入場料	22,750	
		国内旅行取扱料金	19,250	
		保険代	17,500	
		添乗費用	18,700	
計	409,900	計	409,900	

2 6 支 部 名：岸和田障害者共同作業所

- ① 実 施 日：令和7年11月1日
- ② 実 施 場 所：岸和田市立波切ホール お祭り広場
- ③ 対 象 者：利用者、職員、ボランティア、地域住民 約1,000名
- ④ 実施概要

「よっといでフェスティバルの開催」

- ・「誰もが市民として自由に働き暮らせる保障を！」の理念をもとに、障がいのある人のことや、いずみ野福祉会について地域の皆様に理解を深めていただけるような市民交流の場にする。
- ・法人事業にかかわる、かかわらないを問わず障がい児者や子ども、お年寄りなど市民の皆様と一緒に楽しみながら交流できる企画とする。
- ・市民の中に深く根をはる事業として発展してきたことを再確認し、地域で活動している方々と一緒に舞台企画に努める。

(実施内容)

舞台企画……ダンス、歌、和太鼓、よさこい。

屋台……たこ焼き、焼きそば、唐揚げフランクフルト、焼き鳥、うどん等の飲食物販売。
当てクジ、スーパーボールすくい、スマートボール、コイン落とし。

子供企画……アイマスク体験（アイマスクをして輪投げ）。

⑤ 成 果

毎年参加されているボランティア以外に、今年度は開催趣旨に賛同された地域のスポーツ団体が新たにボランティアで参加され、地域との繋がりが広がり地域に深く根をはる事業を実感することができました。施設から取組みとして参加した障がい者や地域の障がい者が、舞台に出演された地域の方々や、ボランティアの方々、遊びに来ていただいた地域の方々と、舞台や屋台を通して一緒に楽しみ交流できる場になりました。

⑥ 今後の展望

今後も舞台企画や屋台を地域で活動している方やボランティアさんと一緒になり、地域の方々や障がいのある人達が交流できて楽しめる場にしていき、地域に根付いた企画にしていきます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	会場借用料	115,660	
自己資金	881,247	宣伝広告費	69,300	
売店出展料	6,000	舞台設営・撤去費	297,220	
		横断幕製作費	63,580	
		音響一式	77,959	
		出演料	116,706	
		机・いす等レンタル代	205,205	
		景品代	26,777	
		行事保険料	27,000	
		その他	37,840	
計	1,037,247	計	1,037,247	

27 支 部 名 : 夢工房くるみ

- ① 実 施 日 : 令和7年12月27日
- ② 実 施 場 所 : 羽曳野市立総合スポーツセンター羽曳野コロセアム
- ③ 対 象 者 : 利用者 36名 職員 26名 計 62名
- ④ 実施概要

「夢工房くるみ大忘年会の実施」

目的は集団意識を高め、授産活動、余暇活動に取り組んだ1年間の頑張りを労いながら来年への意欲につなげる忘年会とする。

内容は事業所全体で1年間の活動を写真や動画などで振り返り、普段の給食とは違う豪華なお弁当を食べながらビンゴゲームでクリスマスプレゼントを、利用者全員に配布した。

⑤ 成 果

昨年度も同会場での大忘年会を実施する予定ではあったが、新型コロナの影響で直前に自粛することになった。

今年こそという気持ちで当日まで実施できるか不安ではあったが、無事に当日を迎えることが出来ました。

そのような背景から利用者、職員共に大忘年会が出来ること自体に大きな喜びがあり、当日は感慨深い大忘年会となった。昼食で用意したのは皆さんのリクエストが多かった焼肉幕の内弁当でした。数種類の部位が食べ比べられる弁当で、味、ボリューム共に満足のいくお弁当でした。デザートはショートケーキとチョコケーキから好きなほうを選んでもらいました。大変盛りあがったくじ引きゲームは、以前ビンゴゲームでの失敗（利用者の皆さんにとってルールがわかりづらかった）から数字の入ったボールを選んでもらうゲームにしました。一人ずつボールの入った箱に手を入れて引いてもらうときのわくわくした表情がとても良かったです。景品はお菓子の詰め合わせや、カップラーメンなどが人気でした。

新型コロナの影響以降、感染者が発生した場合、感染拡大防止のため会場の使用を自

粛することになるため、全体行事は会場を借りて実施することが少なくなりました。事業所では全体行事を行うスペースがないことからこうした行事は他施設を借りて行うこととなりますが、利用者の皆さんの共に笑いあう笑顔を見ていると改めて集団実践の大切さを感じました。今年度は感染症の影響もなく、参加希望者が全員集まることが出来たことで年度末を締めくくることが出来たことは大きな成果だったと思います。

⑥ 今後の展望

大忘年会は年度末恒例の行事として定着しており、今後も続けていきたいと思っています。今年は米価の影響等から給食についても大変苦労しました。特にグループホームでは食事体制加算がないこともあり、満足してもらえる給食を利用者への負担を増やさずにどう工夫するかに知恵を絞りました。そのような背景から今回の助成金で豪華なお弁当を利用者の皆さんに提供することが出来たことは大変ありがたく、また今後もこの行事を通じて提供できればと思っておりますので、今後ともご協力をお願い致します。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	会場代	21,560	
自己資金	38,723	レンタカー代	10,175	
		昼食代	129,800	
		デザート代	7,025	
		駐車場代	200	
		プレゼント代	17,013	
		紙皿等食器代	770	
		飲料代	632	
		ペースト食代	1,548	
計	188,723	計	188,723	

28 支 部 名：東成育成園

- ① 実 施 日：令和8年1月13日
- ② 実 施 場 所：東成育成園
- ③ 対 象 者：利用者 39名 職員 21名 計 60名
- ④ 実施概要

「防災対策としてのポータブル電源の購入と業務継続計画研修・BCP訓練の実施」

目的：震度5強の地震の想定で、災害発生時に取るべき行動や避難行動を利用者と職員で訓練する。帰宅困難の想定で電気やガスなどインフラも使えないことを想定し、ポータブル電源の活用について学ぶ。

ダブル電源の必要性を知る。また、購入したポータブル電源の使い方と動作確認をし職員にも学習してもらう。利用者、職員に防災意識をもってもらい、緊急時に普段から備える。

(具体的内容)

園内の防災計画に従って、今年度の災害避難訓練を防災委員会主導で企画、実施する。
地震災害避難訓練

- ・震度5強の地震が大阪市で発生し、強い揺れを感じたため身を守る行動をとる。
- ・揺れが収まった後、念のため近隣公園に避難する想定で園庭への集合を職員の指示に従って速やかに行う。
- ・園庭への集合が完了したら、避難訓練の講評とBCP（事業継続計画）についての説明を管理者が行う。
その際に帰宅困難になる想定や福祉避難所の開設についても説明し、ポータブル電源の説明と購入の経緯などを全参加者に伝えた。
- ・ポータブル電源とソーラパネルの使い方と動作の確認を行う。
- ・解散後、防災担当や事務室職員でBCPの訓練に入る。
- ・BCPでは各役割分担の確認や必要な動き各所への連絡、福祉避難所の開設など想定される動きを研修し、実際にシミュレーションを行う。
- ・その後、終礼などで総括を行い、全職員への周知、啓発に努める。

⑤ 成 果

- ・職員の問題意識や災害時のイメージを作るのに避難訓練だけではなく、その後の業務継続訓練に触れることができたのは良かった。
- ・ポータブル電源とソーラパネルの使い方と動作の確認を行えたのと操作や災害時の備えを確認できた。

⑥ 今後の展望

当事業所は避難訓練も定期的に行っているが、継続していくことで利用者の避難行動や職員の動きもスムーズになって来ている印象がある。

また、災害については避難訓練と事業継続訓練を組み合わせることで、イメージをし易くなることがわかり、今後の訓練の企画にも活かしたい。

課題も見つかったことで、今後の災害への備えをより進めていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	110,000	ポータブル電源	119,196	
自己資金	9,196	(パネルセット×2)		
計	119,196	計	119,196	

2 9 支 部 名：支援センター中

- ① 実 施 日：令和7年9月22日、29日、10月7日、16日（生活介護）
令和7年11月14日（就労継続支援B型）
- ② 実 施 場 所：1班：神戸どうぶつ王国・ブッフェGOKOKU、2班・3班：神戸どうぶつ王国・聚景園、4班：王子動物園・聚景園（生活介護）、5班：奈良筆工場見学・金魚ミュージアム・奈良公園・奈良ロイヤルホテル(就労継続支援B型)
- ③ 対 象 者：1班：利用者 9名 職員 4名 計 13名（生活介護）
2班：利用者 3名 職員 3名 計 6名（生活介護）
3班：利用者 4名 職員 3名 計 7名（生活介護）
4班：利用者 4名 職員 4名 計 8名（生活介護）
5班：利用者 18名 職員 6名 計 24名（就労継続支援B型）
- ④ 実施概要
「グループ別日帰り旅行の実施」
生活介護：「体験活動で学びを深め、協調性やマナーを育てる。動物とのふれあいで心が癒され、命の大切さや思いやりも育まれる。」を目的に取り組む。実施内容として、満足度調査をもとにグループ分けを行い、活動の中で食事マナーを学ぶ時間を取り入れることで、より充実した体験となるよう工夫する。
就労継続支援B型：「参加者の希望をもとに複数の旅行プランを用意し、本人が選んで決める仕組みで、主体性と意思決定力を育てる。」を目的に取り組む。実施内容として、集団での社会見学(製造工程の見学)を取り入れ、学びの機会を設ける。また、食事の場を活用してマナーを学ぶ時間も設け、実践的な学習につなげる。

⑤ 成 果

生活介護：集団行動ではなく、少人数でのグループ行動を取り入れたことで、利用者一人ひとりの希望に合わせた柔軟な対応がしやすくなり、より安心して活動に参加できる環境づくりにつながった。また、動物との触れ合いの時間を設けたことで、普段の活動場面では見られない表情や反応が引き出され、情緒面での良い変化やリラックスした様子が見られるなど、貴重な体験となった。

就労継続支援B型：創作体験を取り入れたことで、普段使っている物がどのように作られているのかを学び、物を大切に扱う意識が育まれた。また、自分たちの旅行に対する意識が広がり、1日の行程の中で「何を学び、どう楽しむか」を自分たちで考える力が身についたように感じられた。

⑥ 今後の展望

生活介護：グループでの日帰り旅行は利用者から高い評価を得ており、こちらが想定していた以上の効果が見られた。今後は、日頃の関わりの中で体験していただきたい内容を意識しながら、旅行にも積極的に取り入れていきたい。また、満足度調査で寄せられた意見も引き続き利用者の声として参考にし、より良い形で実施していきたいと考えている。

就労継続支援B型：自分たちの旅行に対する意識は変えず、利用者が興味を持ち楽しめるような情報提供を行っていく。そのうえで、利用者の意見を聞きながら、思い出に残る要素を取り入れていきたい。また、利用者の高齢化や能力低下が年々顕著になっていることから、安全面を十分に考慮した活動計画を立てていく必要がある。何より、実際の体験に勝る学びはないため、安心して参加できる環境づくりを大切にしていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	貸切バス代	121,000
自己資金	242,690	昼食代	224,200
大阪市福祉バス借上補助金	51,200	見学・入場料金	52,120
		通行駐車料	8,240
		駐車場	3,100
		高速代	17,190
		その他	18,040
計	443,890	計	443,890

30 支 部 名：さらの郷

① 実 施 日：令和7年12月2日

② 実 施 場 所：さらの郷

③ 対 象 者：重度心身障がい者 6名 強度行動障がい者 19名
グループホーム利用者 5名 計 30名

④ 実施概要

「車椅子用体重計の設置」

目的：当事業所を利用する重度の障がい者及び強度行動障がい者、グループホーム入居

者の健康管理の一環として、体重の変化を知る。

○重度心身障がい者の体重傾向：一般に低体重の傾向が強い。要因としては咀嚼・嚥下困難による摂取量不足や消化吸収能力の低さがある。その一方で不随意運動や筋緊張によるエネルギー消費は大きい。

○強度行動障がい者の体重傾向：極端な肥満または極端な痩せ(低栄養)の二極化が目立つ。肥満の原因は過食、偏食、活動量の低さなど。肥満は糖尿病や高血圧などの生活習慣病のリスクに繋がる。低栄養の原因としては、こだわりや感覚過敏、食事への集中が困難な特性など。

○グループホームでの体重管理について：体重推移の記録は、健康状態、栄養状態を把握する判断材料となり、成人病や低栄養の予防、早期発見に繋がる。また正確な記録は、適切なケアが行われている証明でもある。

⑤ 成 果

車椅子用体重計を購入したことにより、利用者の体重変化について即座に把握することが可能になった。また、当事業所では車椅子を利用する利用者以外にも、多動等により通常の体重計の測定が困難な強度行動障がい者を有する利用者も通所しているが、このような利用者に対しても車椅子用の大型体重計は有効であり、定期的な体重測定が可能になった。

⑥ 今後の展望

定期的な体重測定を継続的にを行い、測定値を記録することで、利用者の体調の変化や栄養状態の変化を把握するための判断材料としていきたい。

体重の増加は、糖尿病や高血圧などの生活習慣病を発症する要因になる。また体重の増減は、栄養状態や水分バランス、病気の兆候などを示す重要な指標となる。定期的な体重測定により、これらのリスクを減らすことを目指していく。

また日中活動(生活介護)利用者のみならずグループホーム(共同生活援助)入居者においても、健康状態を知る指標の一つとして活用していきたい。

月ごとの記録値を折れ線グラフにするなど視覚化し、支援員間で情報共有することで、変化にいち早く気づき、過去の記録も振り返りやすくなると考えられる。こういった手法も取り入れながら、利用者が地域の中で、その人らしく健康に暮らせるようなサポートを続けていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	福祉用体重計	185,000	
自己資金	53,500	消費税	18,500	
計	203,500	計	203,500	

3 1 支 部 名：山直ホーム

① 実 施 日：令和7年12月13日、14日、20日、21日

② 実 施 場 所：山直ホーム館内（4か所で実施。本館1階、本館2階、別館、別棟）

③ 対 象 者：利用者 43名 職員 14名 計 57名

④ 実施概要

「クリスマス会の開催」

目的

- ・クリスマス会を通じ楽しむ。
- ・クリスマス会を通じ利用者同士が親睦する機会を作る。
- ・利用者の主体性を尊重する。（利用者の意見を尊重した内容にする・利用者が役割を持つ等）
- ・季節感を感じる。（飾りつけを行なう・衣装を着る・ケーキを喫食する等）

⑤ 成 果

目的に沿って実施することができた。

利用者が主体でクリスマス会が実施できるように、利用者自身で内容を決め、利用者自身が内容を決めることが困難なユニットでは職員が利用者とコミュニケーションをとりながら、一緒に内容を決めたり、ユニット毎で内容を考え実施した。利用者が司会を務め、飾りつけ、食事準備、片付け等も職員と行ない、職員主体ではなく利用者が積極的に参加できるよう利用者に合わせた支援を行なった。利用者の表情も良く「楽しい」「ごはん美味しい」「またやりたい」等の発言もたくさんみられた。クリスマス会を通じてQOLの向上が図られた。

⑥ 今後の展望

利用者のQOLの向上が図れるよう、利用者の要求を反映した内容で余暇活動を実施する。そのために、今回の様に助成金や、充実した職員体制が必要である。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	90,000	衣装・装飾代	15,738	
自己資金	2,414	飲料・食事代	76,676	
計	92,414	計	92,414	

3 2 支 部 名：ほんまちライフ ひこぼし

- ① 実 施 日：令和7年12月20日、24日
- ② 実 施 場 所：ほんまちライフ ひこぼし
- ③ 対 象 者：利用者 22名 職員 13名 計 35名
- ④ 実施概要

「クリスマス会の開催」

年末にあたり1年間の頑張りを労う意味も含め、イベントを楽しんでいただくことを目的にクリスマス会を実施した。

第一部はクリスマスのお楽しみショーとして紙芝居形式のクイズやスタッフと利用者との漫才披露、メインのヒーローショー、クリスマスプレゼントの交換など。

第二部は24日のクリスマスイブに特別食として会食を実施しました。

⑤ 成 果

例年より充実したサービスの提供ができた実感しています。

利用者も大変喜ばれて大盛会でした。特に漫才は、スタッフと利用者として何度も練習を重ね、披露の時に練習の時よりも大きな声を出して最後までやり通せたので利用者も充実感があつた、楽しかった！と喜んでおられました。

ヒーローショーも見ただけではなく、利用者も一緒に参加して大盛り上がりでした。プレゼントもいつもより良い物を提供出来たので喜んでいただけました。

また、特別食はいつもよりレベルアップした分、「美味しい！」と喜んでいただけたのがよかったと思います。

⑥ 今後の展望

今後も利用者に喜んでいただけるよう、充実したイベントが開催できるよう努めていきたいです。また、出し物も利用者と一緒に考え、取り組んでいきたいと思っています。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	昼食代	50,400	
自己資金	11,284	ケーキ代	18,916	
		プレゼント代	11,968	
計	81,284	計	81,284	

3 3 支 部 名：ナポレオンフィッシュ

- ① 実 施 日：令和8年1月27日
- ② 実 施 場 所：ナポレオンフィッシュ
- ③ 対 象 者：利用者 18名 職員 5名 計 23名
- ④ 実施概要

「ナポレオンフィッシュ新年会の実施」

日ごろから作業活動に取り組んでいる利用者の皆さんをねぎらい新しい年を気持ちよく迎えるきっかけづくりとして、また作業活動における目標達成に向け一致団結できる機会として新年会を実施しました。

⑤ 成 果

楽しみや期待感をもって行事に参加できるよう普段の昼食とは異なる食事の提供やゲーム大会、ビンゴ大会を行いました。新年会を告知した時からみなさんとても盛り上がり、当日も始まる前からとても楽しみにされていました。普段の行事では皆さんの趣味嗜好は様々なので一度の行事で全員が楽しめる行事の企画はとても難しいのですが、今回は豪華なお弁当にケーキ、ゲーム、ビンゴ大会(景品) と色々なお楽しみがあったことから全員が楽しめた新年会になったと思います。その中で利用者・職員も一丸となり目標に向けて頑張ろうと全員で確認することができました。

⑥ 今後の展望

就労継続支援B型事業所としてコロナ禍の一度を除き、開所以来平均工賃を右肩上がりに上げていくことができいております。今年度は今の時点で13年前に開所した時からの目標である平均工賃30,000円を達成できる見込みとなっており、大きな目標の達成を目指した節目の年度と考えております。このような一致団結できるような場を設けさせて頂き、これを機会に目標達成に向けて頑張っていきたいと思います。今後も利用者に喜んでいただけるよう、充実したイベントが開催できるよう努めていきたいです。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	昼食代	39,744	
自己資金	4,822	ケーキ代	8,770	
		景品代	26,308	
計	74,822	計	74,822	

3 4 支 部 名：摂津市立みきの路

① 実 施 日：令和7年11月22日

② 実 施 場 所：摂津市立味舌体育館

③ 対 象 者：利用者 83名 家族 30名 職員 92名 ボランティア 51名 来賓 18名
計 274名

④ 実施概要

「スポーツフェスタ2025の開催」

「スポーツフェスタ2025～エッホ、エッホ摂津有和会メンバーに味舌体育館でスポーツフェスタが始まるって伝えなきゃ～」を開催した。

関係団体やボランティアと協働のもと、摂津有和会の各事業所が一堂に会し、スポーツを通じて利用者の健康維持・増進と利用者、職員、ボランティア、家族、来賓等の交流を図ること、地域へ向けた発信を目的とし、摂津有和会がワンチームとなり、スポーツ・レクリエーションに接する機会を提供するものです。

内容としましては、知的障がい、身体障がいのある方を中心とした、10代から70代の障がい内容等が様々な利用者が楽しめる競技としてフライングディスク、大玉送り、借り物競争、玉入れ、〇×ゲームを企画し、毎年、アップデートしていくこと、1人でも多くの利用者に参加して頂くこと、地域へ向けた発信をすることを目的に、競技内容等の創意工夫を図りました。地域の大学生ボランティア（藍野大学、大阪人間科学大学）から計51名参加し、障がいへの理解をより深めてもらい、今後の学生、社会生活に活かせる良い機会となりました。

⑤ 成 果

障がいの有無に関わらず、利用者、家族、ボランティア、来賓、職員がワンチームとなり、お互いを理解し合い、楽しむことが出来ました。

ボランティアアンケートにおいては、「貴重な体験ができた」、「みんなで楽しめた」、「また参加したい」との肯定的な意見が大半を占めており、次年度以降への発展も期待できます。

⑥ 今後の展望

毎年アップデートしながら、「より楽しく、よりワンチームとなれる、より地域へ発信できる」企画運営をさせていただきます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	100,000	玉入れ用具一式	85,562
自己資金	59,717	参加賞	22,887
		来賓・出演者用飲料	5,598
		ボランティア用弁当	27,000
		体育館使用料	7,416
		ビーチボール	830
		フライングディスク	2,590
		乾電池	1,206
		雑費	6,628
計	159,717	計	159,717

3 5 支 部 名：摂津市立ひびきはばたき園

① 実 施 日：令和8年2月14日

② 実 施 場 所：摂津市立コミュニティープラザ

③ 対 象 者：利用者、家族、職員、地域住民 計 125名

④ 実施概要

「第22回 つくっ展と輝けコンサートの開催」

ひびきはばたき園では障害のある方が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指しています。そのために地域の人々との交流や相互理解を軸に、地域に密着したオープンな施設である事、また地域福祉の啓発に努めています。作品展、音楽鑑賞会の実施はその実現の一端になる事を目的としています。

実施内容として、コミュニティープラザのエントランスにひびきはばたき園の利用者が1年間かけて作成してきた作品を2月14日(土)～2月20(金)まで展示させていただきました。2月14日(土)には輝けコンサートとして、歌のお兄さんお姉さんに来ていただき音楽コンサートを行いました。

⑤ 成 果

コンサート当日は予想を上回る人数の方に来ていただき、コンサート、作品展両方のアンケート結果でも満足していただけていました。地域の方もたくさんの方に来ていただけて、目的としている地域福祉の啓発に繋がっていると思います。

⑥ 今後の展望

今後もひびきはばたき園の恒例行事として継続して行っていき、障害のある方が地域で安心して暮らせる社会を目指していききたいと思います。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	作品制作・展示用物品	5,128	
自己資金	51,230	ボランティア保険	900	
		駐車場代	1,000	
		レンタル代	40,656	
		弁当代	2,070	
		出演者贈呈品	5,000	
		出演料	104,000	
		施設利用料	42,476	
計	201,230	計	201,230	

3 6 支 部 名：アクティビティーセンターひびき

- ① 実 施 日：令和7年9月18～19日
- ② 実 施 場 所：兵庫県神戸市・姫路市・神崎市
- ③ 対 象 者：利用者 12名 職員 6名 計 18名
- ④ 実施概要

「利用者宿泊訓練の実施」

利用者同士の交流、職員との交流を通して社会参加を図る。宿泊旅行を通して、日常では見られない良い姿を共有することを目的に実施した。

実施内容：姫路セントラルパーク、もちむぎの里の散策と食事。

神戸青少年科学館の見学。

⑤ 成 果

日常では見られない発言や、楽しそうな姿を旅行を通じて沢山引き出すことができた。家族と一緒に外出することが難しい人にとって、貴重な時間となった。

⑥ 今後の展望

家族、利用者からは「やっぱりいつも一緒に働いている仲間と旅行に行くのは楽しい」との感想が聞かれた。今後もこのニーズに応えていききたいと思います。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	昼食代	56,700
利用者負担	360,000	入園料	39,600
自己資金	269,557	通行料	20,620
		宿泊費	182,390
		バス代	345,400
		旅行取扱手数料	6,000
		キャンセル料	30,000
		その他	18,847
計	699,557	計	699,557

37 支 部 名：ういず守口

- ① 実 施 日：令和7年9月5～6日
- ② 実 施 場 所：和歌山県ポルトヨーロッパ・和歌山城
- ③ 対 象 者：利用者 22名 職員 12名 計 34名
- ④ 実施概要

「メンバー旅行の実施」

目的：メンバー同士の慰労・懇親・仲間作り

生活介護のメンバーだけではなく、就労系のメンバーも一緒に、事業所としてみんなで大宴会を楽しむ内容とした。

5月頃からメンバー旅行委員を利用者の中から選び、会議を重ねていく中で今年度も「どこに行くかではなく、誰と何をするのか!!」を大切に考えていきたいと共有しました。その中で、「みんなで大宴会をしよう」と決まり、各グループの出し物の練習を積み重ねてきました。

⑤ 成 果

今年度もメンバー全員の笑顔とたくさんの思い出を共有することができました。重度の知的障がいをもつメンバーさん達にとって、このメンバー旅行は大きな意義があり、社会参加の機会を得ることが出来ました。当日まで利用者主体の取り組みを進めてきた中で今回もメンバー達の大きな力になったと思います。

⑥ 今後の展望

今後も、利用者・職員共経験を積んで行き、メンバー主体での宿泊行事に取組みながら、社会参加を目指していききたいと思います。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	1日目昼食費	63,800
自己資金	494,936	宿泊費	302,742
		バス代	205,700
		バス乗務員宿泊費	8,800
		高速代	14,680
		旅行傷害保険	6,600
		2日目昼食	38,880
		手配料金	4,840
		企画手数料	3,894
計	644,936	計	644,936

38 支 部 名 : わくわくワーク

① 実 施 日 : 令和7年10月11～13日

② 実 施 場 所 : 就労継続支援B型事業所わくわくワーク

③ 対 象 者 : 利用者 20名 職員 5名 地域住民 20名 計 45名

④ 実施概要

「わくわくワークス 焼き芋祭りの開催」

・本事業の目的

本事業は、地域で開催される夏祭りに模擬店として焼き芋店を出店し、地域住民との交流を深めるとともに、事業所の利用者やスタッフに社会参加・就労体験の機会を提供することを目的とする。祭りという地域に開かれた場を通じて、多世代が交流できる機会を創出し、地域福祉の向上に寄与することを目的にします。

・本事業の内容

模擬店では、子どもから高齢者まで幅広い世代に親しまれる「焼き芋」を提供する。焼き芋は素材の魅力がわかりやすく、提供方法もシンプルであることから、地域イベントに適している。

- ・販売方法：アルミホイルに包んださつまいもを炭火またはオーブンで焼き、来場者に提供する。
- ・メニュー構成：子ども向けの小サイズと大人向けの大サイズを準備し、幅広いニーズに応える。
- ・地域との連携：可能であれば地域農家からさつまいもを仕入れ、地産地消をアピールする。
- ・広報・工夫：商店街利用者への事前告知の実施と、販売時には、事業所の紹介や活動内容を簡単に伝えられるチラシを添えて、地域に向けた情報発信の機会とする。

⑤ 成 果

利用者と近隣住民のふれあいの場を作れたことによる、利用者の体験とともに、地域住民への理解が広がったと考える。来場者数約20名。通行人の方も興味は持ってくれており認知度の向上に寄与できたと考えています。

⑥ 今後の展望

さらに、模擬店の取り組みを定期的に行い、地域に根ざした福祉事業所としての役割をより一層強化していきたいと考えております。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	焼き芋機	90,934	
自己資金	27,308	販売用袋	4,716	
		販売用のぼり	1,658	
計	97,308	計	97,308	

3 9 支 部 名：高井田苑

- ① 実 施 日：令和8年1月23日、2月13日
- ② 実 施 場 所：ボウルアロー志紀店
- ③ 対 象 者：市内事業所利用者 74名 職員 41名 計 115名
- ④ 実施概要

「柏原市作業所連絡会（KSR）ボーリング大会の開催」

本事業は、障がいのある方々の社会参加の促進および地域事業所間の交流を図ることを目的として、柏原市作業所連絡会（KSR）主催により、2日間にわたりボーリング大会を実施いたしました。

当日は、参加者同士が声を掛け合いながらゲームを楽しむ姿が多く見られ、事業所の枠を超えた自然な交流が生まれるなど、社会参加の機会として大変有意義なものとなりました。また、参加者には記念品および地域事業所(くるみ、すてっぷ、ポプラ、風の森、くまのいえ)の授産製品を景品として配布し、地域の福祉事業所の活動周知にも寄与いたしました。

⑤ 成 果

- ・参加者からは「久しぶりの外出行事で楽しかった」「他事業所の方と交流できた」「ストライクがよかった」等の声が寄せられ、社会参加の機会として高い満足度が得られた。
- ・職員同士の情報交換の場ともなり、地域連携の強化につながった。
- ・景品として授産製品を活用したことで、地域事業所の活動を広く知っていただく機会となった。
- ・感染症対策を講じつつ実施したことで、行事運営における安全管理の知見が蓄積された。

本事業の実施にあたり、一般社団法人大阪生活サポート協会より助成を受けました。

近年の物価高騰により、ボーリング場の使用料・靴代・景品費などが上昇し、従来よりも開催経費が増加していました。特にゲーム代・靴代は100名規模となるため、全体予算に大きく影響しました。参加費は利用者負担軽減のため1人500円に据え置きとしたことから、不足分については助成金により補填し、無事に事業を実施することができました。協賛への感謝の意を込め、チラシを作成し全参加事業所に配布するとともにホームページにも協賛団体名を明記し、利用者のご家族にも周知を図りました。

⑥ 今後の展望

本事業を通じて得られた交流の機会や地域連携の広がりや、今後の活動にも継続的に活かしてまいります。特に、参加者からの満足度が高かったことから、地域事業所が連携して実施する行事の定期化や、より多様な参加機会の創出を検討しております。

また、授産製品の活用が地域理解の促進に寄与したことから、今後も地域事業所の魅力発信につながる取り組みを継続し、障がいのある方々の社会参加の機会をさらに拡充していく所存です。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	ゲーム代	40,700	
自己資金	2,219	靴代	44,000	
参加費収入	37,000	景品・記念品・賞状	78,014	
		飲料代	21,935	
		保険料・郵送代	4,570	
計	189,219	計	189,219	

40 支 部 名 : のどか

- ① 実 施 日 : 令和8年3月7日
- ② 実 施 場 所 : 大仙公園 いこいの広場 ICOROBA Café Terrace
- ③ 対 象 者 : 利用者 17名 職員 7名 計 24名
- ④ 実施概要

「親睦会の実施（日帰りBBQ）」

バーベキュー会食とビンゴ大会を楽しみ、利用者同士の親睦を図ることを目的に実施。

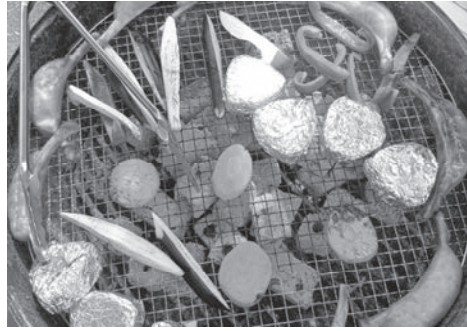
⑤ 成 果

当日は、じょぶライフだいせんに集合し、バーベキュー会場であるICOROBA Café Terraceまで全員徒歩で向かいました。会場まで続く遊歩道沿いには春の花がちらほらと咲き始めており、ハイキングのような雰囲気でした。先頭を歩いている職員を追い越す勢いで元気に歩く利用者もいれば、ゆっくりマイペースで歩かれる利用者もおられました。

バーベキューは屋外で、炭火で焼くスタイルでした。他の利用者とお喋りを楽しみながら、お肉や焼野菜、焼きおにぎり、ドリンク等、順に召し上がっていただきました。公園の開放的な雰囲気の中でのランチバーベキューで、皆さんいつもより食欲があるようにみえました。食事の際は、そのままの大きさと問題ないか確認し、ご高齢の方、咀嚼や嚥下に配慮を要する方へは、一口大に加工して提供させていただきました。こちらのお店は、バーベキューに必要な鉄板や炭はおろか、トングやキッチンはさみ等、調理や加工に必要な道具もレンタルさせていただきました。準備の手間が省けたことも大変ありがたかったです。

⑥ 今後の展望

新型コロナウイルスの影響により、ここ数年、利用者全体で集まって楽しむイベントがなかなか開催できなかったのですが、今回の助成をいただけたこともあり、ようやく開催することができました。会食を終えた後の最後の挨拶の際、利用者からは口々に「楽しかった!」「美味しかった」「また(こんなイベントに)参加したい」などのご意見がたくさん聞かれました。今後も、利用者の要望を聞きながら、皆で楽しめるイベントを企画開催していきたいと考えています。ありがとうございました。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	バーベキュー費用	111,200
自己資金	19,712	景品代	28,143
		菓子代	27,200
		飲料代	2,419
		保険代	750
計	169,712	計	169,712

4 1 支 部 名：港第二育成園

① 実 施 日：令和8年3月31日

② 実 施 場 所：都シティホテル 大阪天王寺

③ 対 象 者：利用者 40名 職員 13名 日中一時 1名 計 54名

④ 実施概要

「食事会とテーブルマナー講習会の実施」

年度末に1年を振り返る機会として行っている食事会ですが、以前より改まった席でのマナーや振る舞いについて学習する機会を設けたいと考えていました。

そこで今回はいつもの食事会とは少し趣きを変え、日常生活では経験する機会の少ない「フルコース料理」を楽しみながら、基本的なテーブルマナーを学ぶ、そして社会人としての振る舞いを身につけることを目的としたテーブルマナー講習付きの食事会を実施しました。実施内容として、当日は講師よりナイフ・フォークの使い方、ナプキンの扱い方、料理ごとの食べ方、姿勢や会話のマナーなどについて、実演を交えながら分かりやすく説明していただきました。

前菜、スープ、魚料理、肉料理、デザート等のフルコース料理を味わいながら、学んだマナーを実践し、またスタッフは必要に応じて支援を行い、利用者一人ひとりが安心して参加できる環境を整えました。

⑤ 成 果

事前学習と実践を組み合わせることで、利用者の多くが正しいナイフやフォークなどの使い方を理解し、落ち着いて食事をすることができました。

具体的には、事前学習でナイフとフォークの持ち方に不安を示していた利用者が本番

では落ち着いて料理を切り分けることができ「うまくできた」と笑顔で話していました。たまに、お互いに「こんな風にするんだよね」と確認をしあいながら上手に食事で使うナイフ・フォーク・スプーンを使い分けて料理を口に行っている姿も見られました。

食事後の感想として「緊張したけど楽しかった」「また参加したいです」といった前向きな感想が多く聞かれ、成功体験となり自信につながったと思います。いつもの年度末の食事会が有意義な学習の機会となりました。

⑥ 今後の展望

今回の取り組みでは、利用者の皆さんが緊張をしながらも、新しいことへ挑戦する姿が見られました。ナイフとフォークを手に真剣な表情で料理に向き合う姿や、きれいなデザートを見てとても嬉しそうな笑顔がスタッフにとっても印象的な場面となりました。皆さんから前向きな言葉が多く聞かれたことにより自信と達成感が感じられ、この講習会が皆さんにとって、大変有意義なものであったと確信しています。

今後もこのような体験をする場面を大切にしながら、利用者一人ひとりが自分の可能性を広げていける機会を積み重ねていきたいと考えています。また日常の支援の中にも小さな「できた」を重ねることで自信へと繋げていきたいです。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	150,000	テーブルマナー会食費	432,000	
自己資金	282,000			
計	432,000	計	432,000	

4 2 支 部 名：支援センターしらさぎ

① 実 施 日：令和7年7月7日、25日、9月2日、12月2日、令和8年1月23日、3月19日
計 6回

② 実 施 場 所：支援センターしらさぎ 食堂

③ 対 象 者：職員、家族 延べ 88名

④ 実施概要

「人材育成を目的としたコンサルテーション事業の実施」

自閉スペクトラム症の特性理解を深め、根拠に基づいた支援を実践できる人材の育成を目的に実施した。

講師：社会福祉法人北摂杉の子会 コンサルテーション室 堀内室長

第1回令和7年7月7日	16:00～19:00	講義 自閉症の理解と支援	16名
第2回令和7年7月25日	16:00～18:00	ケースA ケース検討とスーパーバイズ	16名
第3回令和7年9月2日	16:00～18:00	ケースA ケース検討とスーパーバイズ	15名
第4回令和7年12月2日	16:00～18:00	ケースB ケース検討とスーパーバイズ	16名
第5回令和8年1月28日	16:00～18:00	ケースB ケース検討とスーパーバイズ	13名
第6回令和8年3月19日	16:00～18:00	ケースB ケース検討とスーパーバイズ	12名

基礎研修では、認知特性、感覚特性、冰山モデル、合理的配慮等について学習した。スーパーバイズでは、実際の利用者2事例をもとに、視覚的支援（スケジュールボード、環境構造化、図示）を中心とした支援方法の検討および実践を行った。

また、「話し言葉中心ではない情報処理」、「エピソード記憶に基づく理解」などの視点を踏まえ、予防的支援の考え方に基づいた環境調整を重視した。

⑤ 成 果

慢性的な人手不足に伴い外部研修の受講機会を作ることも難しく、また、持ち帰り研修の時間も捻出しにくい状況から、職員それぞれの知識や経験等の差もあって、共通した認識やレベル感を揃えることの難しさを感じていたが、今回、本事業の実施により、職員全体として自閉スペクトラム症についての基本的理解を深めつつ専門的知見を得ながら関わり方を検証・検討できる場を持つことができた。

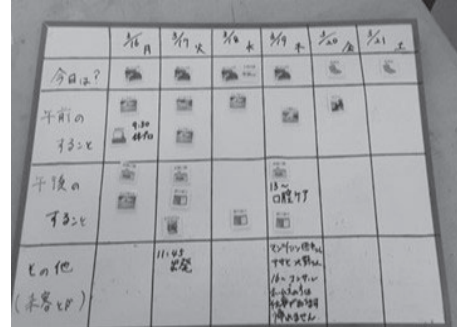
（本事業の実施によって得られた効果等）

- ・視覚的支援の導入により、利用者の不安軽減と行動の安定が見られた
- ・ケースAでは、環境構造化により活動に集中できる時間が伸びた（作業出来高も向上）
- ・ケースBでは、スケジュール提示によりパニックの頻度が減少
- ・予定変更時の視覚的説明により、受け入れがスムーズになった
- ・確認行動の減少など、見通し形成の効果が確認された
- ・職員の障害特性理解が進み、支援の共通認識が形成された
- ・チームとして支援にあたる体制が強化された

日々支援している利用者ケースへのスーパーバイズであるため、その内容を即実践して検証することができたことは、具体的な学びに繋がった。また、なぜそう関わるのかという支援の根拠を確認しながら対応にあたることで、職員間での意見交換や支援方針の共有がしやすくなった面もあり、利用者の反応や行動の変化から、次に必要な支援の検討に繋がることもあった。対象者に対するアプローチが特性に合っているものか（本人にとって分かりやすいか）という共通の尺度を持って関わるという土台作りに繋がった。

⑥ 今後の展望

- ・絵カード等を活用した意思表出支援の強化
- ・スケジュール支援の個別最適化（細分化・柔軟化）
- ・予防的支援のさらなる定着
- ・職員研修の継続による支援力の向上
- ・支援者に依存しない、自立的に理解・行動できる環境づくりの推進



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	70,000	コンサルテーション料	240,000	
自己資金	180,440	交通費	10,440	
計	250,440	計	250,440	

4 3 支 部 名 : え る で

- ① 実 施 日 : 令和8年3月20日
- ② 実 施 場 所 : はーとビュー (松原市人権交流センター)
- ③ 対 象 者 : 利用者、関係者、地域団体、及び地域住民 約 600名
- ④ 実施概要

「みんなのWA2026の開催」

(目 的)

「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」の人権三法が施行されて今年で10年目。『障害のある人もない人もともに地域で生き生きと』を大切に、様々な背景やルーツ、豊かな特性や個性のある人々が互いに認め合い、助け合っていきたいと暮らせる街、『多様な色で描くみんなの未来図』を共につくる。

(具体的内容)

各種出店(飲食、体験、製品販売、フリーマーケット、子ども遊びコーナーなど)
ステージ企画(各種団体より出演)、絆(子ども)食堂開店、もちつき大会、吹奏楽演奏、太鼓

⑤ 成 果

今回の「みんなのWA」は、1週間前までは雨が心配されましたが、当日は穏やかな晴天に恵まれました。そのおかげもあって、約600名もの方々が会場に足を運んでくださり、活気あふれる一日となりました。

今回のテーマである「多様な色で描くみんなの未来図」という言葉どおり、例年以上にたくさんの団体さんに参加していただきました。

特に支部のみなさんによる「もちつき大会」や、フィナーレの地域の子どもたちによる「太鼓」は今年初めての取り組みということもあり、注目の的でした。

みんなで同じ時間を楽しみ、バオバブらしいつながりを実感する場となりました。

⑥ 今後の展望

上記の成果を踏まえ、松原において、地域住民や関係団体とのネットワークをさらに強固なものにしていきます。また、地域の方々と「共にいきいきと」を実現できるよう、日常的な連携を深めていくことを目指したいと思います。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉	
項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	150,000	屋台食材費	113,053
自己資金	86,169	ブルーシート・養生テープ	61,072
売上	109,750	飲料代	15,815
カンパ	10,000	屋台レンタル代	29,820
		プロパンガス代	15,180
		広報費	24,242
		行事保険	3,900
		出演者等謝礼	65,000
		消耗品（ゴミ袋等）	27,837
計	355,919	計	355,919

4 4 支 部 名：グーテン

- ① 実 施 日：令和8年3月17日
- ② 実 施 場 所：グーテン、支援センターい〜な
- ③ 対 象 者：利用者 25名 職員 19名 計 44名
- ④ 実施概要

「ポータブル電源の購入と地域一帯の停電規模を想定した防災訓練の実施」

（目 的）

災害発生時の避難訓練だけでなく、「地震のあとをかんがえよう」と題した防災研修を行いました。停電や断水など「いつも通り」が通用しない不便さ、その際に必要になるものについて研修を通して利用者に体験していただきます。

災害後を想定した訓練をおこなうことで、職員も利用者に必要な対応を考えます。

（内 容）

事前準備：ポータブル電源を購入、職員で使い方を共有しました。

避難訓練実施(3月17日)

地震発生後、地震の影響による出火を想定して避難訓練を実施しました。その後、「地震のあとをかんがえよう」と題して防災訓練をおこないました。

停電、ガス、水道が止まっている状況を想定し、どんなことに困るかを皆で相談しました。

停電や水道の停止を想定してポータブル電源やペットボトルの水を使い電気ケトルでお湯を沸かしてもらいました。レトルトパウチのカレーをお湯で温め、食べられるように利用者にしていただきました。

地震後、電気や水道は止まってしまうと、いろいろなものが「いつも通りに使えない」体験してもらいました。温めたカレーは昼食で提供しています。

⑤ 成 果

年配のグループと若い方のグループに分かれて防災研修を実施しました。年配の方が多いグループでは阪神大震災の時のことや今までの経験があり、停電や断水が続くという事を知っている様子でした。停電時に困ることも皆さんの方から意見が上がりポータブル電源に「こんなものがあるんやね」との声が出ていました。

若い方が多いグループでは災害のあとについて、一緒に考えていく様子でした。

ポータブル電源で温めたお湯でカレーを準備している時に「カレーをもっと食べたい」という利用者がいました。「でも、地震で困った時ならここにある分のカレーを皆で分けないといけないよね」との職員の声掛けに、納得されている様子で昼食の時間に自分の分のカレーを食べておられました。

⑥ 今後の展望

災害時、避難のあとにとのよう過ぎさないといけないのか、どんなことに困るのかを知ってもらい、体験する機会を提供していく大切さを感じました。

災害が起こった際に少しでも利用者の負担が軽減できるように研修を続けていきます。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉		〈支出〉		(円)
項 目	金 額	項 目	金 額	
助成金	92,028	非常用発電機	92,028	
自己資金	3,062	非常食	3,062	
計	95,090	計	95,090	

4 5 支 部 名：地域活動支援センターもくれん

- ① 実 施 日：令和8年2月28日
- ② 実 施 場 所：やたなか小中一貫校
- ③ 対 象 者：利用者、職員 約100名 地域住民 30名 地域事業所 50名
学生ボランティア 30名 計 約210名

④ 実施概要

「スポーツ大会の開催」

本事業は、障がいの有無や年齢に関わらず、大人・子ども・高齢者、そして支援者が共に参加できる「インクルーシブな交流の場」をつくることを目的としています。特にスポーツ大会にeスポーツ（コンピューターゲームやビデオゲームを使った対戦）も競技の一部として組み合わせ身体的・感覚的な違いを超えて楽しめる活動を通じて、参加者が互いの個性を認め合い、共に喜びや達成感を分かち合うことを目指します。さらに、eスポーツを取り入れることで、障がい・年齢・体力差に関係なく誰もが一緒に楽しめる機会をつくり、これまでスポーツ体験に参加することが難しかった方々にも新たな地域交流の場を提供します。

⑤ 成 果

本事業では、障がいの有無や年齢、身体機能の違いを超えて、多様な参加者が一堂に会するインクルーシブな交流の場を実現することができた。

小中一貫校の体育館で実施する事により、利用者・地域住民・関係事業所・学生ボランティア約210名の参加者が地域で一体となって活動することで、相互理解や交流の促進につながった。

特に、従来のスポーツに加えてeスポーツを取り入れたことで、体力差や身体的制約のある方や高齢者でも無理なく参加でき、これまで参加が難しかった利用者層にも活動機会を提供することができた点は大きな成果である。

また、競技や交流を通じて、参加者同士が自然に声を掛け合い、協力し合う場面が多く見られ、自己肯定感の向上や社会参加意識の醸成にも寄与した。

さらに、地域住民や学生ボランティアの参加により、地域とのつながりが強化され、事業所の取り組みを広く知ってもらう機会となった。

⑥ 今後の展望

今回の成果を踏まえ、今後もインクルーシブな交流の機会を継続的に提供し、より多様な人々が参加できる環境づくりを推進していく。

特に、eスポーツの活用については参加のハードルを下げる有効な手段であるため、内容の充実や定期的な実施を検討していく。

また、地域住民や関係機関、学校との連携をさらに強化し、より多くの参加者を巻き込んだ地域交流へと発展させていくことを目指す。

ボランティアの育成や関わりの継続にも力を入れ、支援の担い手の拡充にもつながっていく。加えて、参加者のニーズを踏まえたプログラムの見直しや工夫を行い、誰もが安心して参加できる安全で魅力的な事業運営を継続することで、地域に根ざした持続可能な取り組みとして発展させていきたい。



⑦ 収 支 報 告

〈収入〉

〈支出〉

(円)

項 目	金 額	項 目	金 額
助成金	70,000	パソコンレンタル	22,000
自己資金	47,705	テープ類	6,326
		画用紙	3,909
		風船	214
		乾電池	1,100
		ポリ袋	1,592
		飲料代	25,128
		昼食代	40,000
		チラシ代	3,128
		ボランティア保険	5,600
		その他(消耗品)	8,708
計	117,705	計	117,705

Ⅱ 資 料

○令和 7 年度支部活動等助成事業実施要項

○令和 7 年度支部活動等助成事業実施支部一覧

○大阪生活サポート協会事業の理念と概要

一般社団法人 大阪生活サポート協会
令和7(2025)年度 支部活動等助成事業実施要項

(助成事業の目的)

1. この事業は、一般社団法人大阪生活サポート協会定款に則り、知的障がい児者・発達障がい児者(以下「障がい児者」という。)とその家族の生活の安定と福祉の増進に寄与することを目的とした「支部活動等」に対し助成を行う。

(定義)

2. 「支部活動等」とは、大阪生活サポート協会会員(「生活サポート総合補償制度」に加入する者)が所属する施設・事業所等(以下、「支部」という。)の実施する事業及び複数の支部等が実施する協働事業をいう。

(助成の対象)

3. 助成事業の申請は、大阪生活サポート協会会員の所属するすべての支部を対象とする。

(助成対象事業)

4. 各支部が行う、次の事業に対し助成を行う。
 - (1) 障がい児者の日常生活支援に関する事業
 - (2) 障がい児者の就労支援に関する事業
 - (3) 障がい児者の権利擁護に関する事業
 - (4) 障がい児者の文化・芸術・スポーツ、地域交流、地域貢献等の事業
 - (5) 障がい児者の支援に従事する者の人材育成に寄与する事業
 - (6) コンサルテーション事業
 コンサルタントによる相談・助言・情報提供等
 - (7) 地域(地区ブロック内)の複数の支部が、或いは複数の地区ブロックが協働して行う事業
 〔例：利用者参加型余暇支援活動、支援者や家族対象研修会、グループホーム世話人研修会など〕
 - (8) 防災に関する事業
 防災に関する研修等
 - (9) 家族(保護者会・家族会等)と協働で行う家族支援活動に関する事業 ※助成申請は支部を通じて行うこと 〔例：家族対象の研修会・催し物の開催〕
 - (10) その他目的を達成するために必要な事業

(選考基準)

5. 選考に際しては、次の各項を勘案します。
 - (1) 支部等の備品購入、補修、改修等に関する費用は、原則として助成対象としない。
 - (2) 新規申請支部を優先する。
 - (3) 緊急性が高いと判断される事業
 - (4) 先駆的、独創的な事業で、その効果が期待される事業
 - (5) 継続的な活動により、その効果が期待される事業(研修会・地域交流・人材育成等)

(助成対象期間)

6. 令和7年4月1日から令和8(2026)年3月31日までの間に行われる事業を対象とする。

(助成金の範囲)

7. 支部活動等に対する助成金は、毎年度ごとの予算額の範囲内とする。
 - (1) 支部活動等への助成は年度内1回限りとし、助成額については、事業内容・参加人数等を考慮する。会員5人以下：7万円、6人～10人まで：15万円、10人以上：20万円を上限とする。
 - (2) コンサルテーション事業については、1支部15万円を上限とする。
 - (3) 下記に示す地区ブロック内の複数の支部が協働事業を実施する場合は、事業内容・参加人数等を

考慮し、30万円を上限とする。

(4) 複数の地区ブロックが協働事業を実施する場合は、40万円を上限とする。

※ 地区ブロックとは「北摂、北河内、中河内、南河内、泉州、堺市、大阪市」である。

※ (3)(4)については、大阪生活サポート協会の協賛事業とする。

(手続き)

8. 助成金申請に関する手続きは下記のとおりとする。

- (1) 申請する支部は、様式1-1号・1-2号にて大阪生活サポート協会理事長あてに申請書及び予算書を提出しなければならない。(郵送)
- (2) 事業実施した支部は事業終了後1ヶ月以内(厳守)に様式2-1号・2-2号により、事業報告書及び決算報告書を提出しなければならない。ただし、令和8(2026)年3月中に事業実施した場合は、同年4月20日(厳守)までに報告書を提出しなければならない。
- (3) 事業実施前、あるいは途中において内容の変更がある場合は、様式1-1号・1-2号により変更箇所を明らかにし、再度提出しなければならない。
- (4) 手続きに関する実施要項・様式は、当大阪生活サポート協会ホームページの「お知らせ・事業」ページ〈支部活動等助成事業〉に掲載(添付)している。(ダウンロード可能。)

(審査/結果通知)

9. 提出された申請書に基づき理事会で審査した後に、助成の可否について申請した支部に通知する。

- (1) 助成決定支部には、助成額及び事業報告書・決算報告書(様式2-1号・2-2号)等について、メールあるいは文書にて通知する。

(助成金の交付)

10. 事業終了後1ヶ月以内に提出された事業報告書・決算報告書を理事会で審査した結果、適切な執行と認めたときは、原則令和8(2026)年3月末までに指定の口座に振り込むこととする。

(申し込み締切日時)

11. この事業の申し込み期日は、令和7(2025)年8月末日までとする。(当日消印有効。)

12. 事業実施するに際して、以下の点に留意すること。

- (1) 複数の支部或いは複数のブロックの協働事業の場合は、大阪生活サポート協会の「**協賛事業**」とし、単一の支部で事業実施の場合は「**助成を受けている**」とし、その旨をホームページ上、配布物や行事案内に明示すること。
なお、事業実施後に大阪生活サポート協会へ提出する報告書には明示されている状況を確認できるもの(配布物、写真等)を添付すること。
- (2) 大阪生活サポート協会との「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けている**」旨を明示しない場合は、助成しないものとする。
- (3) 助成対象事業は、令和7年4月以降の事業を助成対象とするが、助成決定時すでに実施済みの場合は、助成後事業所等の発行する機関紙等で、「**協賛事業**」或いは「**助成金を受けた**」ことを広報するとともに、当該年度の事業報告書にもその旨を明示することとする。

附則 令和7年4月1日施行

～問い合わせ先・申請書類の提出先～

一般社団法人大阪生活サポート協会

〒542-0012 大阪市中央区谷町7丁目4番15号 大阪府社会福祉会館3F

TEL: 06-6764-6889 FAX: 06-6770-5988

E-mail: kyokai@osakasupport.or.jp

一般社団法人 大阪生活サポート協会 令和7年度 支部活動等助成事業実施支部一覧

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 希 望 数	実 施 概 要
1	い わ き 学 園 (社福)	い わ き 生 野 学 園	150,000	150,000	25	「夏祭り2025の開催」 利用者に各種模擬店、ゲームコーナー、イベントなどを楽しんでもらいながら、地域住民と交流を深め、社会性を養い、自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう支援していくことを目的に開催。来場者にも模擬店・ゲームコーナーなど楽しんでもらっていた。また、例年より多くの地域のサークルに舞台イベントに参加していただき、日頃の練習成果を披露する場として活用していただいたことで、地域住民の来場も増え、より盛大に行うことができた。地域住民に、障がいがある方への理解を深めていただけるよう努め、本園が目的とする地域交流を図り、地域における公益的な取り組みとして実施することができた。また、前年度の夏まつりで多数の方が来場され、座席が不足していたため、テーブルを購入した。駐車スペースに設置するカラーコーンや舞台昇降用のステップも、今後の夏まつりや学園祭でも活用できるように購入した。
2	か 門 真 共 生 福 祉 会 (社福)	エ リ ア サ ポ ー ト ジ ェ イ エ ス	150,000	150,000	65	「秋の外出 IN 関西万博2025」 「大阪で万博！」という一生に一度あるかないかのイベントに参加して、数年後「あのとき大阪で開催された万博に行った」という思い出と、万博というものを経験していただくことを目的に実施した。入場は12:00からの予約であったため、それまでの時間はあべのハルカスにて土産を購入。(万博グッズを購入できるストアがあるため。※万博内はキャッシュレスと土産売り場の混雑が予想されたため、先に購入。)その後、SKYガーデンにて昼食を食べ万博会場に移動。到着後はグループに分かれて会場散策。万博も終わりに近い日にちであったため、予想以上の混雑であった。それでも数か所のパビリオンを観ることができ、大層混雑リングも歩くことができた。暑い中、かなり歩いて利用者は疲れもあったが、「行って良かった」「楽しかった」「パビリオン色々観れたよ」という声ばかりであった。中には1970年の大阪万博も経験している利用者もあり、「2回も行った」と喜ばれていた。利用者各々の中で貴重な経験となったと感じる万博外出であった。
3	し (NPO) 至 誠	あ べ の 作 業 所	150,000	150,000	13	「利用者日帰り旅行の実施」 関西万博の見学を実施。世界の文化と英知が結集した最先端の技術等を見学・体験し、また仲間との交流を育むことを目的とした。万博の閉幕が近づいていいたため、当日も20万人超えの入場者であった。が、心配したトラブル等もなく、全員怪我等なく無事帰宅できた。1日中、分単位のタイムスケジュールを組んでの集団行動だったにも関わらず、正に一致団結し助け合いながら、終始楽しみ笑顔で楽しむことができた。会場内の移動距離もかなりあったが、休憩しながらスケージュール変更することなく終えられた。事前下見の際に購入しておいた「ミヤクミヤク」のぬいぐるみのキーホルダーを帰路のバス車内で配布したとき、利用者全員笑顔で、帰宅後もキーホルダーを観ながら万博の余韻を楽しまれた様子であった。
4	ふ ぶ く ぶ く 福 祉 会 (社福)	ぶ く ぶ く 福 祉 会	150,000	150,000	54	「ぶくぶくあべと夏の開催」 当法人では、利用者が絵画・手芸・工芸などの創作活動に取り組んでいるが、その作品が外部に発表される機会は限られている。作品発表の場を設けることで、利用者の自己肯定感を高めるとともに、地域住民との交流を促進し、相互理解を深めることを目的に今年度初めて開催した。今までは法人の他事業所の創作物を利用者は目にする機会があまりなかったが、今回は他事業所の作品もたくさん利用者に目見ていただくことができ、各作品の出来栄に感心していた。次はこんな作品を作りたいという声も聞くことができ、創作に意欲的になっていく。家族も来所、作品を楽しそうにご覧になっていた。「アート展が楽しく良いですね」との言葉もいただいた。初日の地域商店街のお祭りが中止になり、多くの万に作品を見ていただき、地域の方々の交流ができなかったことが残念である。
5	は (社福) ば な な	サ ニ ー ・ サ イ ト	70,000	70,000	3	「災害時用テントの購入」 震災等の災害時には、一時的に事業所が避難所としての機能を担う場面も考えられる。その際には一部の建物の設備等が使用不可能になる場合もある。シェルター・テント2つとタープ・テント1つを購入し、利用者が安全・衛生的に避難・トイレや着替えができるようにすることが目的。ワンタッチタイプのテントであるため、設置が楽に行えた。また、重量も1つ13kgと持ち運びもしやすかった。災害時に必要なものは何かと職員間で検討した結果、今回はテントの購入となった。今後は、これらを使用して避難訓練を行い、災害への備えができるようにしていく。
6	の ノ ー マ ラ イ ゼ ー シ ョ ン 高 槻 (NPO)	コ ル メ ナ	150,000	150,000	22	「コルメナ15周年記念アート展の開催」 コルメナから15年を迎え、利用者の作品展を開催した。日々、利用者の皆さんの皆さんが絵画や刺しゅうに取り組んでいる。15年の間に作風が変わった方、変わらず作り続けている方がいます。今回は、今現在の彼らの作り出す作品を見ていただきたいとの思いで、近年の作品に絞った展示を企画した。コルメナのことを存じなかった方が多く来てくださり、作品の良さを伝えることができた。たくさんの作品を販売することもでき、利用者の収入に反映させることもできました。開所から15年を迎え、利用者の作品展を開催した。
7	さ サ ラ イ 福 祉 会 (社福)	サ ラ イ	70,000	70,000	1	「利用者・秋の宿泊レクリエーションの実施」 長野方面に旅行を実施。利用者が季節を感じられるレクリエーションの一つとして、秋の味覚であるマスカット狩りとリンゴ狩りを行った。各果樹園での試食では本場信州の秋の果物を堪能していただきました。リンゴ園では木々に囲まれた中にテーブルを用意し、涼しい信州の自然の中で屋食を頂きました。旅館では温泉にも浸かり、部屋でゆつくりと過ごしました。利用者には普段感じる事の出来ない長野県の自然の中で秋の季節を感じて頂き、ぶどう狩り、りんご狩りで秋の味覚を味わい、旅館では温泉に浸かり、秋の味覚を本場信州の自然の中で召し上がっていただき、普段できない体験ができ、良い思い出作りができた。重度障がいの方々も安全に、旅行中に体調を崩すことなく過ごす事ができ、他の地域の方との交流の場を持つことができました。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
8	(社福) 大阪聴覚障害者あ 福社会	あいらぶ工房	70,000	70,000	5	「日帰り旅行 IN 神戸」 感染防止のため、2つの日程に分けて実施。三ノ宮で昼食後、神戸須磨シーワールドへ、普段は1つの班に分かれて過ごしているため、班を越えた交流をし、社会性を養う機会を設けた。各回ともに、班を越えたグループで行動した。重複障がいのある利用者同士との、またボランティアとの交流を図ることができた。また、観光や外食から集団行動やマナー、社会性を育むことができた。旅行で育まれた協調性や思いやり、社会性をこの日帰り旅行だけで終わらせず、日常生活でも発揮できる環境づくりや支援に取り組みたい。
9	(社福) 療育・自立セン ター	すばる、北斗福祉 作業所	150,000	150,000	25	「すばる・北斗まつりの開催」 コロナの影響もあり、規模を縮小して行ってきた「すばる・北斗まつり」ですが、普段交流することの少ない利用者、家族、職員などが交流を深める機会にしようとして、今年度は今までにない取り組みとしてキッチンカーを招き、それ以外では機織店、舞台（カラオケ）、盆踊り、花火などを企画し、実施した。キッチンカー（からあげ）以外に機織店（焼きそば）、フランクフルト、ポテト、かき氷、揚げパン、たこせん、餃い物）を所産と食堂に分かれて行い、遊びコーナーとしてお化け屋敷、スマートボール、水鉄砲射的を所産と別の部屋と廊下で行い、廊下で舞台（カラオケ）、お菓子コーナー、自主製品の販売も行いました。後半には盆踊りと花火を所産で行い、まつりを締めくくった。
10	(社福) 路交館	ういず滝井	70,000	70,000	2	「利用者旅行の実施」 仕事をいつも頑張っているから「おつかれさま」の意味を込めてみんなで旅行に行く。旅行から帰ってきて、また笑顔で仕事を頑張るために全力で楽しむ。メンバー皆で意見を出し合って旅行という行事を作っていくことを目的に実施。メンバー旅行まではどこに行きたい？雨ならどうする？何を食いたい？チームで動く？等、色々なことを利用者会議で決定した。旅行に行きたいをどのように実感していくか、利用者同士の関係、チーム作りを行った。旅行までの過程を大事にしてみんなと一緒に楽しんでいることを発見し、日々の仕事や生活の慰安、メリハリ、次のやる気アップに繋がった。旅行の取り組みをすることで、自分たちで計画し進めていることを感じ、自信に繋げることができた。
11	(NPO) チャレンジ・ド ネットいずみ	ととろプラス	70,000	70,000	2	「懇話会の実施」 ハーベキューをしたことのない利用者が多く、経験と楽しむことはもちろん、他者と協力して目的に向けた買い物調理等を行う過程で自立する力をつけることを目的に実施。実際には、お金の計算ができず、どんな金額の支払いも「1,000円」で支払っていた方が、買い物に向けてお金の計算の練習などができ、物価を知る中で予算の範囲で何をかうのかという経験ができた。普段の調理実習では、「料理を作る事が目的で、切り方を一つ一つ解説、チャレンジできる時間がなかったが、仕込みの時間に、野菜に応じた切り方などもひとり一人学ぶことができた。また、ハーベキューでは、役割分担をし、他者と協力する中で、日々の活動は関わり合いの少ない方と交流する良い機会となった。
12	(社福) ゆうとおん	ゆうとおん ほーぶ	50,000	50,000	48	「ゆうとおんまつりの開催」 地域の方々や他事業所との交流を目的として企画し、開催にあたっては当事者の中から実行委員を募り「ゆうとおんまつり会議」を何度も行いながら、やりがいことやお店内容などを一緒に考え、準備を進めた。当日は、例年通り焼きそば・イカ焼き・たこ焼き・ポテトから揚げ・ピンポン玉入れ・円玉落としなどの模擬店が並び、今年は新たにピザコンゴウ会を開催して大いに盛り上がった。また、投擲製品やアートクラブ作品、当事者活動「みんななでこめる会」によるジュース販売も行い、地域の方や日頃事業所に来る機会の少ない家族に、日常の活動を知っていただく良い機会となった。他事業所にも出店いただき、交流の輪が一段広がる場となった。今年も多くのの方々協力により無事開催することができ、今後地域とのつながりを深めながら、より多くの方にゆうとおんや他事業所の活動を知っていただければと思う、継続して取り組んでいきたいと考えている。
13	(社福) 大阪手をつなぐ 育成会	支援センターさくら	150,000	150,000	13	「さくらフェスタ2025の開催」 平成18年度より、地域との交流を深め、障がい理解の啓蒙を図る事を目的としてさくらフェスタを実施している。ステージでは地域の学校等の発表、広場では福祉サービス事業の物品販売等、芸術や経済活動を通じて、よりニュートラルな感覚としての障がい理解を促進する機会の提供を目指して実施している。今年度は支援センターさくら開所55周年を記念したフェスタとして開催した。昨年に比べ地元元のボランティア団体や中学校などの出演、出店数を増やしたこともあり、地域住民の来場が多々見られた。ステージ司会やバザー販売員として利用者の方々担当を担うことで地域住民と交流を持ち、当法人の事業への理解を促進する機会になったと考える。今後とも、地域事業所等の参加をさらに募り、地域と協同で実施するイベントとして展開していきたい。
14	(社福) 大阪福祉 事業財団	あさひ希望の里	150,000	150,000	30	「グループホームにおける非常用電源の購入と避難訓練の実施」 大災害に備えてのポータブル電源の購入、および避難訓練を実施。従来から南海トラフ地震など大規模災害を想定した避難訓練を実施し、避難経路の確認などを進めている。その中で、一時的に命を守れるも「グループホームは生活の拠点であり、ライフラインが寸断された場合に命が守れない」との職員の総括から、非常用電源の確保が必須となった。今回はその購入と、有効な使い方を学習することを目的とした。予め利用者とともに避難訓練を実施することで、緊急時に実際に行動する避難方法を把握。また地域の防災訓練に参加したことで、近隣の方の力を借りてできる避難、あるいはその後の避難生活を確認した。その中で、避難できない、或いは避難せずにグループホームに留まることが必要なケースもあることが分かり、改めてポータブル電源の必要性を感じた。

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
15	そ （社福） そうそうの杜	そ そうそうの杜	150,000	150,000	85	<p>「利用者旅行の実施」</p> <p>北海道の大自然や食べ物をテレビの中の世界だけの中の世界ではなく、実際に体験し、触れることで視野を広げるとともに、その経験を今後の生活の幅を広げるようにすることを目的として実施した。エスコンフィールド北海道でスタジアムツアーに参加。白い恋人パークでクッキー作り体験、旭山動物園、札幌市内の見学。ノーザンホースパーク（馬牧場）へ見学等実施した。企画の目的として養っていた今後の生活の幅を広げるような貴重な体験ができた。また、今回の社会見学を皮切りにたくさんさんの発見や挑戦する大切さを感じることでできた。今回の社会見学を通して目で見ただけでなく、北海道の大自然を肌で感じることでできた。今後は日本のみならず海外など、さらに視野を広げられるような活動をしていきたい。</p>
16	こ （社福） こごせ福祉社会	た 拓共同作業所	150,000	150,000	8	<p>「こごせ福祉まつりの開催」</p> <p>法人が一つになって交流を深めることと、利用者の活動を地域に知ってもらう為に開催。</p> <p>舞台発表（利用者の発表、ダブルダッチ、マリノバ演奏、バンド演奏）、お店（カレー、餃子、フライドポテト、フランクフルト、回転焼き、あてもの、バザー）、果物販売、野菜販売、作品展示（作品の展示、活動報告）などを実施した。当日は利用者、家族、職員、後援委員会、職員家族、地域の方々と一日、舞台や出店や抽選会などで楽しむことができた。また、保護者や地域の方々には舞台や展示などを通して日々の活動を知っていただくことができ、保護者や職員、利用者と交流を図ることができた。利用者や保護者の方からは今後この活動を続けてほしいという声がアンケートに上ったので継続していきたい。</p>
17	お （社福） 大阪手をつなぐ育成会	し 支援センター ねぎぼうず	150,000	150,000	8	<p>「日帰り旅行の実施」</p> <p>利用者の年齢が50歳代、家族も7～80歳代と高齢化が進み普段外出する事が困難になっていた。利用者の支援度・介助度が年々上りつつあり、今回の日帰り旅行を通じて、家族との思いやりや絆を深めるとともに、職員と利用者や家族との交流を深めるために実施した。目的地の京都タワーでは京都の街並みがよく見えた。「あそびご行った事あるよ」、「昔、家族で行ったね」等思い出話に花が咲いた。産食のメニューも従来から経験回数を重ねた事でマナーも良くなり、100種類あるという都ホテルのランチビュッフェを堪能した。今回は、行き先を決める際に本人の套で投票をしたところ同票となり「それじゃあどつちでも行けるようにしましよ」と選択制になった。</p> <p>家族の皆さんも「一緒に出かけられるのもこの旅行だけ」という方も多く、食事等の介助も職員がいるから安心できる」といった声があり今回の旅行も好評であった。</p>
18	す （社福） 北摂杉の子会	し ジョブサイトひむろ	120,000	103,276	46	<p>「杉の子農園収穫祭の開催」</p> <p>高槻市内の法人3事業所統の社、ぶれいすBe、ジョブサイトひむろの利用者、職員、地域住民200名が対象。法人所有の農園で事前に利用者に収穫してもらった野菜（サツマイモ）で焼きいもを作り、飲み物と一緒に農園内で飲食してもらった。</p> <p>天候にも恵まれ、青空の下で、焼きいもをいただき、普段顔を合わせたことが少ない他事業所の利用者や職員の交流の機会になった。当初は、地域住民を交えたイベント形式での開催を予定していたが、会場の都合で昨年同様の開催形式になった。次年度以降は、子ども食堂の同時開催と併せ、検討していきたい。</p>
19	あ （株） アベリア企画	は ハミガキ広場	70,000	70,000	1	<p>「避難所改革と防災対策研修会の実施」</p> <p>ハミガキ広場関係者における災害対策の周知のための研修会を実施した。防災対策と被災における問題点に参加者にてディスカッションを行った。防災対策としてライフラインの確保との意見より、飲料水の確保のほか暑さ寒さ対策や情報収集の必要性である電気の確保の必要性、ポータブル電源の必要性と使用方法の説明を行った。また、各自のスマートフォンやいろいろな家電機器などをポータブル電源を通して稼働を行った。</p> <p>災害による被災となる確率はすべての方が同じであり、その時に助け合える環境が構築されている事が重要であると感ずる。利用者・スタッフ・家族等安心できる基点として事業所を考えて頂けるようにと思っている。今後活動の一環としてポータブル電源等の貸し出し運営も実施したいと考えている。</p>
20	と （社福） 豊中のそみ会	た 多機能型事業所 みらい	150,000	150,000	17	<p>「日帰り旅行の実施」</p> <p>コロナ禍以降、遠出の外出を実施していなかったため、観光バスに乗り、旅行気分を楽しさを味わう事や生活介護と就労継続支援B型の利用者が一緒に外出する事も無かったため、今年は事業間の交流も一つの目的として実施した。事業所より観光バス2台で出発、姫路セントラルパークにて見学と食事。何より利用者の笑顔が成果であった。久しぶりの旅行にバスに乗るだけでも嬉しそうであった。助成金を受けて、リフトバスを用意できたことは車椅子の利用者には乗り降りがとても楽であったと共に、久しぶり大きな観光バスでの外出で、旅行を満喫されていた。</p> <p>今後は、車椅子での移動の方が6人おられ、散策の際にスピード感が違うので、動きに差ができ、同じ場所に行く事よりもそれぞれの体調や動けるスピードなどによってコース分けし、小グループでの活動の方が良いかも知れないと感じた。</p>
21	ろ （社福） 路交館	さ 桜の園	150,000	150,000	33	<p>「慰安旅行の実施」</p> <p>桜の園では重度の障がいを持つ方や身体障がいの方、年齢を重ねていくことで介助を必要とするようになってきた方などが仲間として、仕事であったり日々の生活と共に過ごしている。今年も宿泊旅行に行きたいと言う希望が利用者の方から多く出てきたため日々の仕事を頑張っている慰労として、また利用者のモチベーションに繋げることを目的に慰安旅行を実施した。旅行にいくまでの取り組みとしてチームで何処に行きたいか、何を食べてほしいのか、何を食べてほしいのかを話し合ったり、考えていく中でチームの中での結束や桜の園の仲間としての意識がより一層高まった。今後この旅行でのチーム活動の経験を活かし、地域との交流や行事等で意見を出したり活躍してもらい利用主体の活動を進めていきたいと考え。</p>

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
22	わ (社福) 和光福祉社会	わ ワーク いっぽ・つばさ	200,000	150,000	10	<p>「ワークいっぽ・つばさ初めての交流会の開催」</p> <p>令和7年4月より多機能事業所として事業開始したが、事業形態の違いと事業所の所在地の違いがあり、利用者間の交流ができていなかった。交流会を実施し、お互いの交流を深め、生活介護事業からは就労継続支援B型へのステップアップを目指すきっかけの一つとして、また就労継続支援B型は生活介護事業を利用者との交流を持つことで人との関係を幅広くできる場としての、機会を提供することを目的に開催した。出張奉司 和菓子作り体験などを実施。開始直後はなかなか話しかけづらい様子であったが、一緒に見学や体験をすることで「がんばって」、「これもおもしろいよ」と会話のきっかけになっていた。</p> <p>今回の交流会を経て、仲間意識ができていているように感じた。今後も情報交換などができる場を提供したり、一緒にイベントを楽しんでいければと考えている。</p>
23	い (社福) いずみ七彩	い いずみひのき 製作所	70,000	70,000	1	<p>「非常用発電機の購入と避難訓練の実施」</p> <p>非常時におけるポータブル電源の利用も随分と進んだ。避難訓練を実施。普段行っている避難訓練に加え、購入したポータブル電源の使い方を職員だけでなく利用者も含めて学習していた。訓練で利用することによって、意識づけができてきたように感じる。</p> <p>また、いざという時は利用者が主体になっても電源を使うことができるよう、使い方の順番を皆で確認し手順を書いた紙を並べて話しあいながら再度確認をしていた。いざという時は慌ててしまうことが多いが皆が使い方を理解していることで、お互い助け合うことや役割分担をスムーズに行うことができるので皆の安心につながることができたと感じた。今回ポータブル電源を購入させていただいたことで、食べ物や連絡などにおいての非常時の不安解消につながることができ、とても心強く感じられた。</p>
24	か (社福) 嘉誠会	う ヴァンサンクつつじ	50,000	50,000	5	<p>「ヴァンサンクつつじ祭りの開催」</p> <p>利用者、家族、職員、関係者が一堂に集まり交流を図り、人と人が触れ合うことで、地域に根づいた、開かれた施設を目指すことを目的に開催した。当日まで飾り付けや、出店のポップなど職員と共に楽しみながら利用者が制作されていたのが印象的であった。天候にも恵まれ、家族と一緒に食事をされる方もたくさんおられた。家族、利用者同士が交流し、談笑されながら施設内で自由に過ごされている雰囲気は、新型コロナウイルス流行後、初めて見る光景であった。普段の日中活動とは違う特別感をかみしめる様に、参加し楽しんでいた。また、寄居同士も久しぶりに顔を合わせられる方も多く「このようなイベントを企画し、家族同士を会わせてくれたことに感謝します」と、ありがたい言葉を頂戴した。職員に関しても、企画段階から、準備、当日まで、日常業務の合間に会議を重ね、どうすれば楽しんでいただけるだろうか試行錯誤し、運営にあたったことで、各目の発言力や、発想力、チーム力、リスクマネジメントが向上した。</p>
25	み (社福) みきた福祉社会	み みきた作業所	70,000	70,000	4	<p>「日帰り旅行の実施」</p> <p>箱の業務司体験、奈良日航ホテル(屋敷)金魚ミュージアム(見学)。</p> <p>コロナ禍も過ぎ、以前のように利用者、家族、職員と共にバス利用により奈良方面への日帰り旅行を実施した。社会見学・手作り体験・外食など、日常生活と違う環境の中で心身のリフレッシュを図り、参加者同士の親睦を図ることを目的とした。1年ぶりの日帰り旅行で、家族も楽しみにされていた。体験・食する・見学と1日有意義な時間を過ごす事ができ、利用者にとってもよい社会勉強になったものと思われる。今後とも体験・見学を中心に行先を検討していきたい。</p>
26	い (社福) いずみ野福祉社会	き 岸和田障害者共同 作業所	200,000	150,000	28	<p>「よっといでフェスティバルの開催」</p> <p>「誰もが市民として自由に動きまわらせる保障を」の理念のもとに、障がいのある人のことやいずみ野福祉社会について地域の皆様に理解を深めていただけたような市民交流の場にするのを目的に開催。法人事業にかかわる、かかわらないを問わず障がい児や子ども、お年寄りなど市民の皆様と一緒に楽しみながら交流できる企画とした。また、市民の中に深く根をはる事業として発展してきたことを再確認し、地域で活動している方々と一緒に舞台企画に努めた。</p> <p>毎年参加されているボランティアさん以外に、今年度は開催趣旨に賛同された地域のスポーツ団体が新たにボランティアで参加企て、地域との繋がりが広がり、地域に深く根をはる事業を実感することができた。施設から取組みとして参加した障がい者や地域の障がい者が、舞台上に出演された地域の方々や、ボランティアの方々や、遊びに来ていただいた地域の方々や、舞台や屋台を通して一緒に楽しみ交流できる場となった。</p>
27	く (社福) くろみ福祉社会	ゆ 夢工房くるみ	150,000	150,000	26	<p>「夢工房くるみ大忘年会の実施」</p> <p>羽曳野市立総合スポーツセンターを会場として、集団意識を高め、控産活動、余暇活動に取り組んだ1年間の頑張りを労いながら来年への意欲につなげることを目的に実施した。事業所全体で1年間の活動を写真や動画などで振り返り、普段の給食とは違う豪華な弁当を食べながらドラゴンゲームでクリスマスプレゼントを利用者全員に選んだ。新型コロナウイルスの影響以降、感染者が発生した場合は、感染拡大防止のため会場の使用を自粛することになるため全体行事を会場を借りて実施することが少なくなかった。事業所では全体行事を行うスペースがないことからこういう行事は施設設備を借りて行うことになるが、利用者の皆さんの共に笑いあう笑顔を見ていると改めて集団実践の大切さを感じた。今年度は感染症の影響もなく、参加希望者が全員集まることが出来たことで年度末を締めくくることが出来たことは大きな成果だったと考える。</p>
28	お (社福) 大阪市手をつなぐ育成会	ひ 東成育成園	150,000	110,000	23	<p>「災害対策としてのポータブル電源の購入と業務継続計画研修・BCP訓練の実施」</p> <p>ポータブル電源の購入と、震度5強の地震の想定で、災害発生時に取るべき行動や避難行動を利用者と職員で訓練した。</p> <p>帰宅困難の想定で電氣やガスなどインフラも使えないことを想定し、ポータブル電源の必要性を知る。また、購入したポータブル電源の使い方と動作確認をし、職員にも学習してもらうこと、利用者、職員に防災意識をもってもらい、緊急時に普段から備える。地震発生時、電力が止まった時に業務継続等に必要電源の確保と災害時における業務継続研修・訓練による利用者、職員の防災意識の向上を目的に実施した。</p>

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
29	大阪手をつなぐ (社福) 育成会	支援センター 中	150,000	150,000	9	<p>「グループ別日帰り旅行の実施」</p> <p>生活介護班、就労継続支援B型事業所の2班にて実施。</p> <p>生活介護、集団行動ではなく、少人数でのグループ行動を取り入れたことで、利用者一人ひとりの希望に合わせた柔軟な対応がしやすくなり、より安心して活動に参加できる環境づくりにつながった。また、動物との触れ合いの時間を設けたことで、普段の活動場面では見られない表情や反応が引き出され、情緒面での良い変化やリラクゼーションした様子が見られるなど、貴重な体験となった。</p> <p>部B：創作体験を取り入れたことで、普段使っている物がどのように作られているのかを学び、物を大切に扱う意識が育まれた。また、自分たちの旅行に対する意識が広がり、1日の行程の中で「何を学び、どう楽しむか」を自分たちで考える力が身についたように感じられた。</p>
30	和泉つくし福祉 (社福) 会	さらの郷	150,000	150,000	13	<p>「車椅子用体重計の設置」</p> <p>当事業所を利用する重度の障がい者及び強度行動障がい者、グループホーム入居者の健康管理の一環として、体重の変化を知ることは重要であり、定期的な体重測定は、「健康」が維持できているかの指標となる。そのため車椅子にも対応出来る大型の体重計を購入した。車椅子用体重計を購入したことにより、利用者への体重変化について即座に把握することが可能になった。また、当事業所では車椅子を利用する利用者以外にも、多動等により通常の体重計の測定が困難な強度行動障がい者有する利用者も通所しているが、このような利用者に対して車椅子用の大型体重計は有効であり、定期的な体重測定が可能になった。今後も、定期的な体重測定を継続的にを行い、測定値を記録することで、利用者の体調の変化や栄養状態の変化を把握するための判断材料としていきたい。</p>
31	いづみ野福祉会 (社福)	山直ホーム	121,500	90,000	35	<p>「クリスマス会の開催」</p> <p>クリスマス会を通して楽しむ。クリスマス会を通じて利用者同士が親睦する機会を作る。利用者の意見を尊重した内容にする。利用者が役割を持つ等)季節感を感ずるなどを目的に実施した。利用者が主体でクリスマス会を実施できるように、利用者自身で内容を決め、利用者自身が内容を決めることが困難なユニットでは、職員が利用者コミュニケーションをとりながら、一緒に内容を決めたり、ユニット毎で内容を考え実施した。利用者が同金を募めたり、飾りつけ、食事準備、片付け等も職員と行ない、職員主体ではない。職員主体ではない利用者が積極的に参加できるような利用者に合わせて支援を行なった。利用者の表情も良く、「楽しい」「ごはん美味しい」「またやりたい」等の発言もたくさん聞かれた。</p> <p>クリスマス会を通じてQOLの向上が図られたと考える。</p>
32	パワースト (NPO)	ほんまちライフ ひこぼし	70,000	70,000	4	<p>「クリスマス会の開催」</p> <p>年末にあたり1年間の頑張りを労う意味も含め、イベントを楽しむことを目的にクリスマス会を実施しました。紙芝居形式のクイズやスタンプと利用者とともに選手披露、メインのヒーローショー、クリスマスプレゼントの配布、特別食として缶食を実施した。ヒーローショーも見ただけではなく、利用者も一緒に参加して大盛り上がりであった。助成金のおかげで従来より充実した内容のサービスを提供できていたと実感している。今後も利用者に喜んでいただけるよう、充実したイベントが開催できるよう努めていきたい。また、イベントの出し物も利用者と一緒に取り組んでいきたいと考える。</p>
33	ナポレオン (NPO) フィッシュ	ナポレオンフィッシュ	70,000	70,000	1	<p>「ナポレオンフィッシュ新年会の実施」</p> <p>日ごろから作業活動に取り組んでいる利用者者をねぎらい、新しい年を気持ちよく迎えるきっかけづくりとして、また作業活動における目標達成に向けて一致団結できる機会として新年会を実施した。楽しみや期待感をもって行事に参加できるよう、普段の昼食とは異なる食事の提供やゲーム大会、ビンゴ大会を行った。新年会を告知した時からみなさんとても盛り上がり、当日も始まる前からとても楽しみにされていた。普段の行事では趣味嗜好は様々なので一度の行事で全員が楽しめる行事の企画はとても難しいが、今回は豪華な弁当にケーキ、ゲーム、ビンゴ大会(景品)と色々なお楽しみがあったことから全員が楽しめた新年会になったと考える。</p>
34	摂津育和会 (社福)	摂津市立みきの路	200,000	100,000	31	<p>「スポーツフェスタ2025の開催」</p> <p>関係団体やボランティアと協働のもと、摂津育和会の各事業所が一帯に会し、スポーツを通じて利用者の健康維持・増進と利用者、職員、ボランティア、家族、来賓等の交流を図ること、地域へ向けた発信を目的とし、摂津育和会がワンチームとなり、スポーツ・レクリエーションに接する機会を提供した。内容としては、知障の障がい、身体障がいのある方を中心とした、10代から70代の障がい内容等が様々な利用者が楽しめる競技としてフライングディスク、大玉送り、借り物競争、玉入れ、O×ゲームを企画し、競技内容の創意工夫を図った。</p>
35	摂津育和会 (社福)	摂津市立 ひびきはばたき園	150,000	150,000	12	<p>「第22回 つくし園と輝けコンサートの開催」</p> <p>障がいのある方が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指している。そのために地域の人々との交流や相互理解を軸に、地域に密着したオープンな施設である事、また地域福祉の啓発に努めている。作品展、音楽鑑賞会の実施はその実現の一端になる事を目的とした。</p> <p>実施内容として、コミュニケーションのエンタランスにひびきはばたき園の利用者が1年間かけて作成してきた作品を展示。また、輝けコンサートとして、歌のお兄さんお姉さんに来ていただき音楽コンサートを行った。コンサート当日は予想を上回る人数の方に来ていただき、コンサート、作品展両方のアンケート結果でも満足をいただけた。地域の方もたくさんの方に来ていただき、目的としている地域福祉の啓発に繋がったと考える。</p>

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
36 ひ	(社福) ひびき福祉社会	あ アクティビティセンターひびき	70,000	70,000	4	<p>「利用者宿泊旅行の実施」 利用者同士、職員との交流を通じて社会参加をする。宿泊を通して日常ではみられないお互いの姿を共有することを目的に兵庫方面に宿泊旅行を実施した。旅行を通じて、日常生活ではみられない発言や、楽しそうな姿をたくさん引き出すことができた。家族と一緒に外出することが難しい人にとっては、貴重な時間となった。家族・利用者からは「やっぱり、いつも一緒に動いている仲間と旅行に行くのは楽しい」との感想があった。今後もこのニーズに応えていきたいと考える。</p>
37 ろ	(社福) 路交館	う ういず守口	150,000	150,000	27	<p>「メンバー旅行の実施」 生活介護のメンバーだけでなく、就労系のメンバーと一緒に旅行に参加した。車旅に当たっては、メンバー旅行委員を選び、会議を重ねていく中で今年度も「どこに行かなくては、誰と何をするのか」を大切に考えていくことを共有した。その中で、「みんなで大宴会をしよう」と決まり、各グループの出し物の練習を積み重ねてきました。旅行では、今年度もメンバー全員の実績とたくさん思い出を共有することができた。重度の知的障がいをもつメンバーさん連にとっく、この旅行は大きな意義があり、社会参加の機会を得ることができた。当日まで利用者主体の取り組みを進めてきたことで、今回も自分たちの大きな力になったと考える。</p>
38 あ	(株) 相生株式会社	わ わくわくワーク	70,000	70,000	2	<p>「わくわくワーク焼き芋祭りの開催」 本事業は、地域で開催される夏祭りに模擬店として焼き芋店を出店し、地域住民との交流を認めるとともに、事業所の利用者やスタッフに社会参加・就労体験の機会を提供することを目的とした。また、祭りという地域に開かれた場を通じて、多世代が交流できる機会を創出し、地域福祉の向上に寄与することも目的とした。模擬店では、子どもから高齢者まで幅広い世代に親しまれる「焼き芋」を提供し、焼き芋は素材の魅力がわかりやすく、提供方法もシンプルであることから、地域イベントに適していた。利用者や近隣住民のふれあいの場を作れたことにより、利用者の体験とともに、地域住民への理解が広がったと考える。通行人の方も興味は持ってくれており認知度の向上に寄与できたと考ええる。</p>
39 た	(社福) 武田塾	た 高井田苑	150,000	150,000	46	<p>「柏原市作業所連絡会 (KSR) ボーリング大会の開催」 障がいのある方々の社会参加の促進および地域事業所間の交流を図ることを目的として、柏原市作業所連絡会 (KSR) 主催により、2日間にわたりボーリング大会を実施した。当日は、参加者同士が声を掛け合いながらゲームを楽しむ姿が多く見られ、事業所の校を超えた自然な交流が生まれるなど、社会参加の機会として大変有意義なものとなりました。また、参加者には記念品および地域事業所の受産製品を景品として配布し、地域の福祉事業所の活動周知にも寄与した。参加者からは「久しぶりの外出行事で楽しかった」「他事業所の方と交流できた」「ストライクがよかった」等の声が寄せられ、社会参加の機会として高い満足度が得られた。また、職員同士の情報交換の場ともなり、地域連携の強化につながった。</p>
40 お	(社福) 大阪府障害者福祉事業団	のどか	150,000	150,000	14	<p>「親睦会の実施 (日帰りBBQ)」 グループホーム利用者・支援員・相談員を対象に親睦会を実施した。当日は、会場まで徒歩で向かったが春の花がちらほらと咲き始めておりハイキングのような雰囲気であった。バーベキューは屋外で、炭火で焼くスタイルで他の利用者とお喋りを楽しみながら、肉や焼野菜、焼きおにぎり、ドリンク等、順に召し上がっていた。楽しかった。公園の開放的な雰囲気の中でランチバーベキューで、皆さんいつもより食欲があるようにみえました。食事の際は、そのままの大きなサイズで問題ないか確認し、ご高齢の方、咀嚼や嚥下に配慮を要する方へは、一口本に加工して提供させていただいた。新型コロナウイルスの影響により、ここ数年、利用者全体で集まって楽しむイベントがなかなか開催できなかったが、今回の助成をいただけたこともあり、ようやく開催することができました。</p>
41 お	(社福) 大阪市手をつなぐ育成会	み 港第二育成園	150,000	150,000	8	<p>「食事会とテーブルマナー講習会の実施」 年度末に1年を振り返る機会として行っている食事会ですが、以前より改まった席でのマナーや振る舞いについて学習する機会を設けたいと考え実施した。今回はいつもの食事会とは少し趣きを変え、日常生活では経験する機会の少ない「フルコース料理」を楽しみながら、基本的なテーブルマナーを学び、そして社会人としての振る舞い身につけることを目的としたテーブルマナー講習付きの食事会を実施した。当日は講師よりナイフ・フォークの使い方、ナプキンの扱い方、料理としての食べ方、姿勢や会話のマナーなどについて、実演を交えながら分かりやすく説明していただいた。事前学習と実践を組み合わせたことで、利用者の多くがナイフ・フォークなどの正しい食事用器具の使い方を理解し、落ち着いて食事をすることができた。</p>
42 お	(社福) 大阪市手をつなぐ育成会	し 支援センターしらさぎ	70,000	70,000	5	<p>「人材育成を目的としたコンサルテーション事業の実施」 趣味的な人手不足に伴い外部研修の受講機会を作ることも難しく、また、持ち帰り研修の時間も捻出しにくい状況から、職員それぞれ知識や経験等の差もあって、共通した認識やレベル感を揃えることの難しさを感じていたが、今回、本事業の実施により、職員全体として自閉スペクトラム症の特性についての基本的理解を深めつつ、専門的知見を得ながら関わり方を検証・検討できる場を持つことができた。対象者に対するアプローチが特性に合っているのか (本人にとって分かりやすいか) という共通の尺度を持つて関わるという土台作りに繋がった。</p>

No	法人名等	支 部 名	助成決定額	実金額	加 入 者 数	実 施 概 要
43	は （社福） バオバブ福祉会	え る で	150,000	150,000	36	「みんなのWA2026の開催」 「障害者差別解消法」「ヘイトスピーチ解消法」「部落差別解消推進法」の人権三法が施行されて今年で10年目となる。『障害のある人もない人も、ともに地域で生き生きと』を大切に、様々な背景やルーツ、豊かな個性や個性のある人々が互いに認め合い、助け合っている街『多様な色で描くみんなの未来国』をともにつくるを目的に開催した。各種出店、スタージェ企画、こども食堂などを企画。今回のテーマである「多様な色で描くみんなの未来国」という言葉どおり、例年以上にたくさんさんの団体に参加していただいた。特に支部のみさんによる「もちつき大会」や、フナエルの地域の子どもたちによる「太鼓」は今年初めての取り組みということもあり、注目の的であった。みんなと同じ時間を楽しみ、ハオハブらしいつながりを実感する場となった。
44	て （社福） 大阪手をつなぐく 育成会	グ ー デ ン	140,000	92,028	6	「ポータブル電源の購入と地域一帯の停電規模を想定した防災訓練の実施」 災害発生時の避難訓練だけでなく、「地震のあとをかんがえよう」と題した防災研修を行った。 停電や断水など「いつも通り」が通用しない不便さ、その際に必要になるものについて研修を通して利用者に体験していただき、災害後を想定した訓練をおこなうことで、職員も利用者に必要な対応を考えた。ポータブル電源を購入、職員で使い方を共有した。災害時、避難のあとにどのように過ごさないといけないのか、どんなことに困るのかを知り、体験する機会を提供していく大切さを感じた。 今後、引き続き災害が起こった際に少しでも利用者の負担が軽減できるように研修を続けていきたい。
45	ふ （社福） ふれあい共生会	地域活動支援セン ターもぐれん も	70,000	70,000	4	「スポーツ大会の開催」 障がいのある年齢、身体機能の違いを超えて、多様な参加者が一堂に会するインクルーシブな交流の場を実現することができた。小中一貫校の体育館で実施する事により、利用者・地域住民・関係事業所・学生ボランティア約210名の参加者が地域で一体となって活動することで、相互理解や交流の促進につながった。特に、従来のスポーツに加えてeスポーツを取り入れたことで、体力差や身体的制約のある方や高齢者でも無理なく参加でき、これまで参加が難しかった利用者層にも活動機会を提供することができた点は大きな成果である。また、競技や交流を通じて、参加者同士が自然に声を掛け合い、協力し合う場面が多く見られ、自己肯定感の向上や社会参加意識の醸成にも寄与した。さらに、地域住民や学生ボランティアの参加により、地域とのつながりが強化され、事業所の取り組みを広く知ってもらう機会となった。

理 念

大阪生活サポート協会は、全国生活サポート協会と連携し、助け合うという「互助」の精神を柱に、知的障がい児者・発達障がい児者の皆さまをかけがえのない存在として捉え、安心・安全に、より豊かな生活が送れるよう支援しています。



一般社団法人全国生活サポート協会は、2006（平成 18）年 11 月に知的障がい児者・自閉症児者とその家族の生活上での安心・安全と福祉の増進に寄与する事を目的として設立されました。現在、全国 46 箇所の生活サポート協会と連携し活動しています。

※令和 6（2024）年度より「生活サポート総合補償制度」の加入要件に発達障がい児者を加えることになりました。（自閉症児者は発達障がい児者の中に含まれます。）

大阪生活サポート協会は、知的障がい児者・発達障がい児者が安心・安全に

地域で「自分らしく生きる」を各種事業と補償制度で支援しています！

会員・その家族、支部（事業所等）

支 援

会員（本人）参加支援

- 日常生活支援
- 表現活動支援
- 作品展示会の開催
- スポーツの振興
（スポーツフェスタ、ソフトボール大会など）

家族支援

- セミナー
- 研修会 など

支部（事業所等）支援

- 支部活動等助成事業
（本人参加型事業、人材育成 など）
- 地域密着型活動支援
（他団体及び事業所間連携・協働による事業など）

地 域 支 援

～地域における支援力向上～

表現活動支援

- 作品展示
（ホームページ、
作品展示会開催など）

人材育成（支援者支援）

- 研修会等の開催
- 他団体及び法人間連携・
協働事業の推進

調査研究

- 共同生活援助（GH）の
実態調査 など

相 談（365 日・24 時間）

～困ったとき、いつでも～

電話相談

- なんでも相談
- 『補償制度』に係る相談

ホームページ

「問合せコーナー」からの相談

- なんでも相談
 - 『補償制度』に係る相談
- ↓
- ジェイアイシーウエストへ転送

対面相談（予約制）

- 弁護士相談、税理士相談
- 社会保険労務士相談
- 『補償制度』に係る相談 等

補 償 制 度

生活サポート総合補償制度（A I G 普通傷害保険）



令和 7 年度 支部活動等助成事業報告書

令和 8 (2026) 年 8 月 発行

発行人 安本 伊佐子

発 行 一般社団法人 大阪生活サポート協会
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7 丁目 4 番 15 号
大阪府社会福祉会館内
TEL : 06-6764-6889 FAX : 06-6770-5988
E-mail : kyokai@osakasupport.or.jp
URL : <https://www.osakasupport.or.jp>
